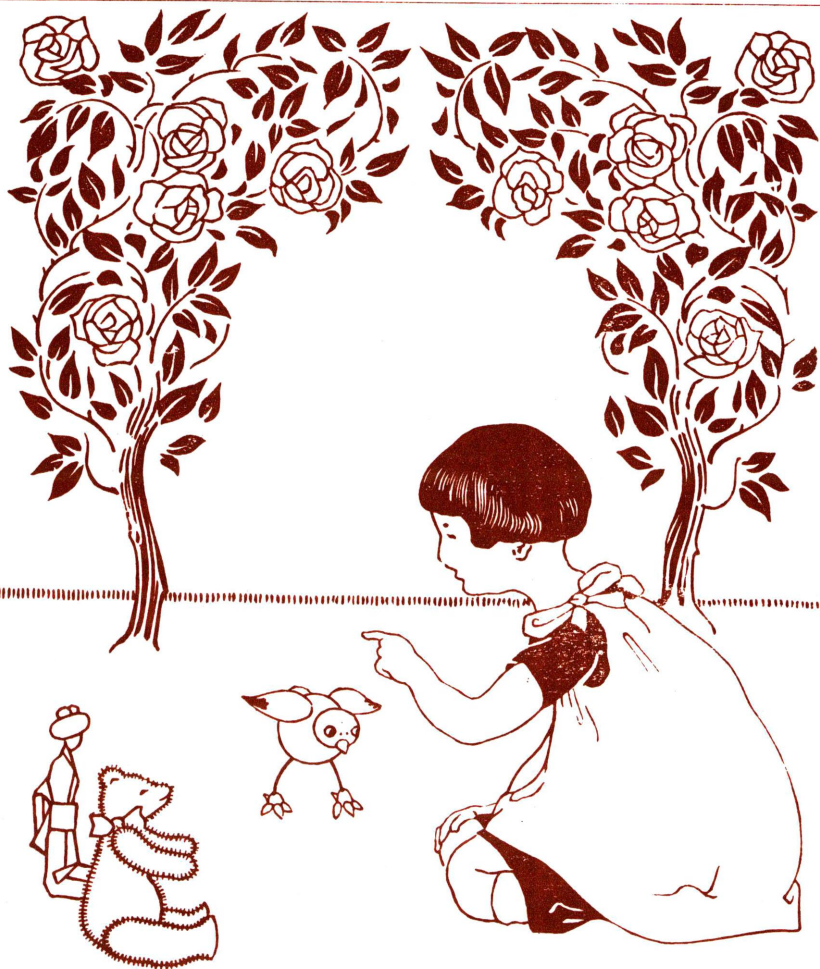


# 幼の教育

第 十 號 月 一 十 卷 七 十 二 第



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內  
日 本 幼 稚 園 協 會

奈良女子高等師範  
學校教諭兼訓導

橫井曹一先生著

菊判箱入  
定價金壹圓八拾錢

送料拾八錢

新刊

兒童中心

# 手工學習指導

機械的模倣的脱  
した手工學習指導

最近、職業教育の高唱せらるる、機連に際し、初等教育に於て最も重要な地位を占むべき手工教育に對して本書はその最も重要な使命を擔ふて居ります。即ち本書の活用に依つて、兒童自から自己の生活者から學習の題材を選擇し、表現の材料を蒐集し、形狀から構成を立案し、作法の會得と創作の暗示の與ふべく遺憾なきを期して居ります。従つて初等教育に力め、手工指導者無二の寶典です、必携を希ひます。

東京女子美術學校教授  
山本キク  
先生新著

## 十三訂新撰裁縫教授法

全一冊洋綴  
插畫百餘  
定價貳圓貳拾錢  
送料拾八錢

透徹した理論と技術  
神に入る實際の者姉  
め文檢受驗の知識として眞髓を把握し得べしと信ず必携を乞ふ

文學士  
青木誠四郎譯

新版

### 保育學校實際研究

全一冊洋綴  
定價八拾錢  
送料拾八錢

久保良英  
青木誠四郎

新版

### 幼兒之研究

菊判洋綴  
定價壹圓廿錢  
送料拾八錢

東京音樂學校教授  
中田章著

新版

### 新教範マーチ・アルバム

大判全一冊  
定價一圓廿錢  
送料十八錢

發行所 東京甲州町九番地 市中區 文館書店 電話 振替 東京三三三番 電話 三三三番 電話 七五番

望月クニ、田中銀之助著二

四六倍版総クロース金文字八  
定價金貳圓五拾錢、送料拾貳圓

幼稚園、小學校  
家庭に於ける

# 創作唱歌と遊戯

小學校の初年級、幼稚園等に課すべき、眞に兒童の實生活を、考慮して作られた唱歌遊戯の教材がなくて因る  
といふ事は、わが教育界至る處に於て常に耳にする聲である。  
此の時に當り、かの幼兒教育の元老であり、權威である望月女史、並に初等、中等教育界に於ける作曲の權威  
田中先生は、其の滔々盡くることなき、日頃の蘊蓄を傾け、心血を注いで、本書を上梓し、之を世に公にし、  
以て現下教育界の要望に添ひ、初等教育、幼兒保育の上に一大福音を齎せられたのである。

## 本書の内容及特色

一、幼童の心的生活を基礎とし、情操陶冶の實を擧ぐるに最も適切なる内容を有す。  
二、右の見地よりして、特に作曲に意を用ひ、兒童の音域、並に音樂的趣味の程度、歌謠能力等を考察し、しかも曲趣深遠にして永久兒童の腦裏を去らざる、最も意義あるものとして作曲せられたり。

三、曲には悉く平易にして趣味深き伴奏を附す。  
四、遊戯しつゝ唱歌を歌ひ、歌ひつゝ遊戯をなすを主體とせるも、亦遊戯を離れ單に唱歌として唱ふる事を得る様にも仕組まれたり。  
五、平常の教科とくは勿論學藝會、唱歌會等に演奏せしむる材料豊富。

尙附録として  
1、平常の授業並に運動會に出演すべき運動教材、遊戯教材等を掲載せり。  
2、著者の創作並に創作ならざる歌曲にして家庭材料幼稚園小學校教材として最も適切なるもの二十餘種を掲載せり。

發行所

神戸市下山手通六丁目三六  
振替口座大阪八〇六八五番

保 育 研 究 會



# 育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長

東京女子高等師範學校長

吉岡

郷甫

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀

七

藏

贊助員

東京高師教授

巖谷秀雄

東洋大學教授

高島平三郎

東京帝大醫科講師

乙竹岩造

東京府女子師範學校長

龍山義亮

東京高師教授

太田孝之

帝國教育會理事

土川五郎

慶應大學教授

唐澤光德

松江高等學校長

野口援太郎

東洋幼稚園長

岸邊福雄

京都帝大教授

乘杉嘉壽

早蕨幼稚園長

久留島武彦

東京女子高師教授

野上俊次

帝國教育會會長

澤柳政太郎

東京女子高師教授

倉橋惣三

東京高師教授

佐々木秀一

東京帝大教授

松村武雄

東京女子高師教授

下田次郎

東京帝大教授

松本亦太郎

東京女子高師教授

菅原教造

奈良女子高師校長

榎山榮次

東京市教育局長

藤井利譽

奈良女高師附屬幼稚園主事

三田谷啓

東京女子高師講師

藤五代策

東京帝大教授

湯原元一

文部省

福士末之助

東京帝大教授

吉田熊次

文部

谷本富

東京女子大學長

安井哲子

文部

谷本富

東京女子大學長

安井哲子





號 十 第 育 教 の 兒 幼 卷 七 十 二 第

口 繪 運 動 會

私が視察した歐米の幼稚園教育(六)……………堀 七 藏……………二頁

十月及び十一月の幼児生活……………卜 部 た み……………一三頁

私の幼稚園——蓑蟲の卷……………水 島 さ ゆ り……………二二頁

童謡遊戯の振と表情について……………戸 倉 は る……………三〇頁

幼稚園のお話

ライオンの赤ちゃん……………久 門 嘉 祐……………三五頁

天 狗 の 團 扇……………安 間 公 観……………三九頁

園兒作品展覽會について……………和 田 都 久 路……………四六頁

粘土でつくつた木の葉のお皿……………及 川 ふ み……………四八頁

南 滿 行……………倉 橋 惣 三……………五〇頁

兒童生活展覽會の印象記……………千 東……………五四頁

遊戯 木の葉……………土 川 五 郎……………六六頁

雜 錄…………………………六九頁

# 最新刊

文學士 倉橋惣三氏序  
日本幼稚園協會編纂

本田庄太郎畫伯  
裝幀及挿畫

# 幼見の樂しむお話

東京市日本橋區大傳馬町二丁目

内田老鶴圃

振替東京一二四六番  
電話浪花一三三五番

◆◆◆◆  
送定價紙四  
料價金四〇  
金十圓八  
八十八十  
錢錢錢錢

子供はお話を聞きたがる。親も先生もお話をしてやりたい。しかし材料がない。實際選擇せられざるお話は大切な子供の前へ持ち出せないのである。その選ばれたお話の集が此の書である。誰れが選んだか、東京女子高等師範學校の附屬幼稚園で幼児達自身が選んだのである。即ち同園で日々話される多くのお話の中で幼児の最も樂しむお話を集められたのである。現に幼児の樂しむお話を話こそすべての家庭と幼稚園とへ一番確實に奨めることの出来るお話である。小さいお子さんは此儘讀んで樂しませて貰へる、大きいお子さんは自ら讀んで樂しむことが出来る。いづれにしても廣く家庭と幼稚園と小學校には是非共備へられなければならぬ物である。

倉橋惣三先生序  
日本幼稚園協會編

幼兒に聽かせるお話

文學士 倉橋惣三氏著

幼稚園雜草

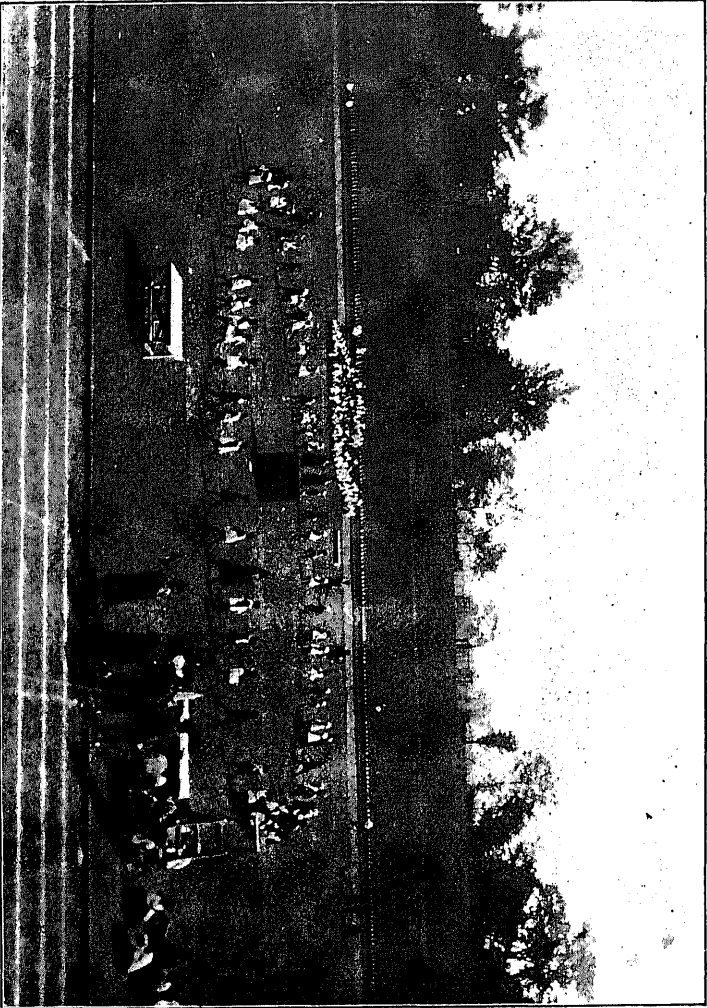
萬國幼稚園協會案  
日本幼稚園協會譯  
倉橋惣三先生序

幼稚園保育要目

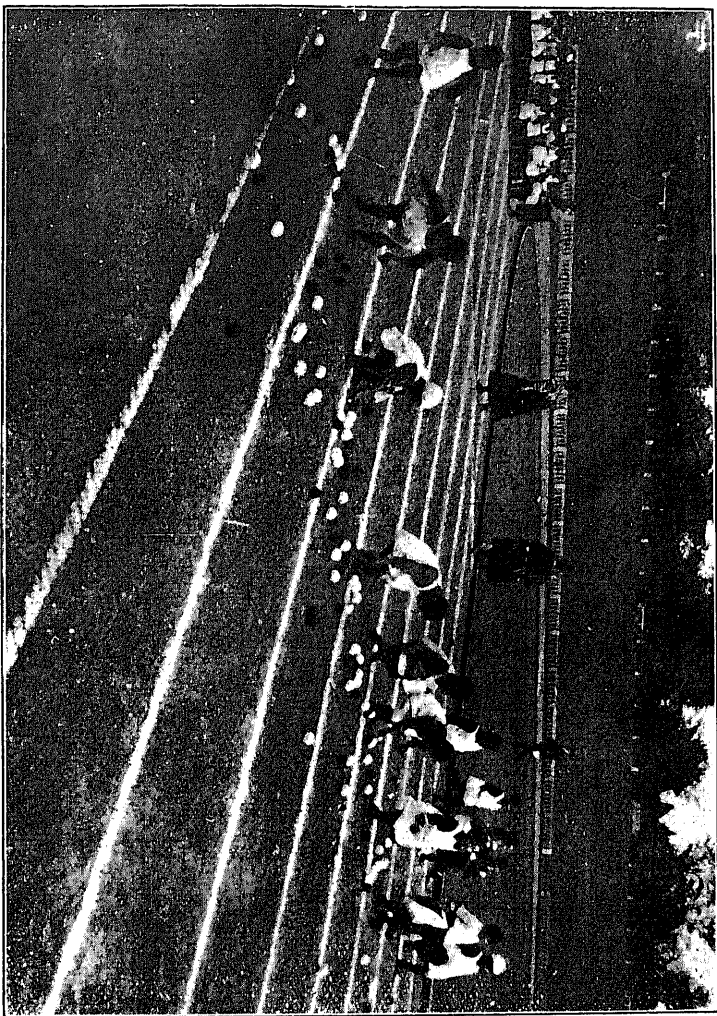
四六版特製本  
紙數六二〇頁  
定價三圓八十錢  
送料十 八 錢

四六版上製本  
紙數五二〇頁  
定價二圓五十錢  
送料十 八 錢

菊版上製函入  
高雅なる裝幀  
定價一圓五十錢  
送料十 八 錢



(一) 會 助 班



運 動 會 (二)

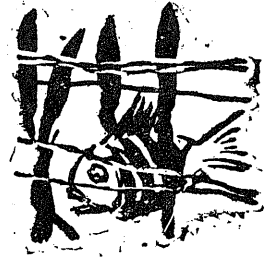




號十第 育教の兒幼 卷七十二第

月一十年二和昭

- 一、教育で家庭教育位重要なものはありませぬ。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。
- 一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。
- 一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。
- 一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。



## 私が視察した歐米の幼稚園教育(六)

堀 七 藏

### 一、保育學校の目的及び作用

一、前號に於て英國に於けるナーセリースクール、即ち保育學校發達の狀況について述べました。がこれからこの保育學校の實際について述べます。

保育學校を家庭の代理と誰でも考へるのが常であります。しかし保育學校時代に於ける幼兒の教育を廣く深く考へるときはその正當でないことが分ります。初生兒に於ては身體と同様精神の榮養は母親によつて供給せられるのが自然であります。この時には母親が不適當であるか否かを論ずることが出来ません。何人も母親に代ることが出来ないのあります。それは單に乳を與へることは他人にも出来るが眞の保育は母親に限るのであります。母子の親密は實に完全で何人との間よりも自然だからであります。若し之を缺くときは他に如何なる利益があつても誠に不幸な結果を來すものでありますから、保育

學校が單に家庭の代理ならば實に不完全なものといはねばなりません。それで保育學校は決して家庭の代理者ではないのであります。寧ろ

保育學校は幼兒の遊び場であります。それは家庭が大人の生活する場所でありますが、保育學校は特に幼兒のためにのみ設備するものであるからであります。幼兒と共に遊び、幼兒の質問に答へ、幼兒にその生活をなさしむるやうに待つてゐる保姆が居ります。

保育學校長は幼兒の必要に應じ幼兒の身心の活動力に應じて方法を講じ良習慣を得しむるため深き注意を拂つてゐるのであります。保育學校は家庭と異り類似した年格恰の幼兒が澤山ゐます。遊び仲間がゐるので幼兒にとつて新しい價值ある生活をなし經驗を得るのであります。

二、以上は英國保育學校の解釋であり目的であります。私が幼稚園についても常に考へてゐますことを指示してゐるのであります。幼稚園は小學校のやうに知識技能を授けることを主とするものでもなく、また家庭の保育を代理するものでもない。簡単にいへば、幼稚園は幼兒にとつて楽しい遊び場所であると申すのであります。家庭では眞の幼兒の遊び仲間がありません。母親でも年寄でも兄弟でも幼兒の眞の遊び相手には不完全であります。幼兒が眞に楽しく遊び幼兒の生活をなすには同じ年格恰の仲間が必要であります。その仲間を容易に得られるのが幼稚園。家庭では幼兒が思ふ存分遊ぶことが出来ないのであります。幼稚園はその遊び場所として出来てゐるのが理想であり幼兒が遊びの生活をなすこと

が出来ます。あゝもを洗ふに一個一個磨ぐことも一方法に相違ありませんが多くのいもを桶の中に入れて水と共にかきまはして全體を一齊に洗ふのが最も有効であります。一個のいもを洗ふときは無理がかゝり、時間と努力とを多く消費するのでありますが、澤山一所にして水と共にかきまはすときは一個／＼のいもに手を觸れることを目的とせず、いもが相互にすれ合つて十分に洗上げることが出来るのは周知のことでありませう。家庭に於て幼児を保育することは一個のいもをこすり洗ふに相當し、幼稚園の保育は桶で多くのいもを洗ふに類似した所があります。幼稚園は多くの幼児（勿論數に制限はありますが）が一室にて遊ぶ間に相互に無理をかけずに自然的な身體精神の發育をなすのであります。それで幼稚園は幼兒の遊ぶ場所で、保姆はその遊び全體が停滯することなく遊ぶことを助けるもの、指導する役目を行ふものであります。この點に覺醒せねば眞の幼稚園保育が出来ないと考へて居りますが、英國の保育學校を主張する人々は保育學校を幼兒の遊び場所と考へ、保育學校の目的を幼兒の遊び場所となすことを要求するのであります。

三、それで保育學校は第一に幼兒の自由にして健全なる身體的發達のために適當な準備をせねばなりません。新鮮な空氣、日當りのよい所で幼兒が十分にとびまはることが出来る十分な場所、また休息し睡眠するに適當な施設をせねばなりません。この點から考へますと我が國の幼稚園には不十分な點が多く、殊に托兒所などになると甚だ不完全といはねばなりません。玩具の多いとかピアノやオルガンがあ

るとかを論ずるのではありません。新鮮な空気を十分に呼吸し得る設備、日當りがよいといふ條件だけでも中々満足してゐません。更に活動力に富んだ幼児が思ふ存分、身體の許す範圍程度に於て、愉快に遊ぶことの出来る場所があり施設が出来てゐることは中々容易ではありません。しかし是等の條件は出来るだけ満足するやうに努力せねばならぬと思はれます。

保育學校は第二に精神の發達に適切なる環境をこしらへねばなりません。精神の發達は教師保母の教授で達成し得るとは限りません。幼児が生活する間に自然に精神の發達を促すやうな環境をこしらへるのが保育學校であります。幼児は生物を好むものでありますから生物を飼育して幼児の精神發達の資料となすことが大切でありますし、花園をこしらへて幼児の生活材料となすことも肝要であります。これが英國に於ける保育學校施設經營の大方針といつて差支ありません。

## 二、保育學校の目標

### 一、保育時間

保育學校は午前九時よりも早く始めるのであります。多くの家庭では母親が幼児を連れて來るか、兄弟が一所に來るかするからであります。幼児の兄弟が小學校へ登校するときに伴ふ爲めには小學校の始業時刻の九時よりも少し早い方がよいのであります。それで午前八時半頃に保育學校を始業するのが普通で、午後四時よりも三十分ばかりおくれて終業するのであります。小學校が午後四時に終業するのが

普通だからであります。

## 二、検査

幼児が學校に來ると受付室で検査をするのであります。病氣の徴候がないか否か、身體が清潔なるか否かを検査するのであります。苦し病氣の徴候があれば相當の手當をなすのは勿論でありますが、傳染病の疑のあるときは他の幼児と隔離する爲め保育室に入れないのであります。我が國の幼稚園などによく傳染病を感染するといふので、醫師も父兄も幼稚園保育をさける傾向がありますのは幼稚園として當然注意すべきことを怠る結果によると思はれます。幼児が登園したならばその身體的情況を検査することは保母として第一に行ふべきであります。英國の保育學校でこの幼児の検査を行ふことは誠によいこととあります。幼児の検査をなし幼児の身體が不潔なときは入浴をさせるかまたは拭ふてやるのであります。これが爲にそれ／＼相當の設備をなすべきは勿論であります。また入浴させるときは風をひかせないやう特別の注意をなすのであります。我が國では幼稚園に於て入浴を實施することも全身を拭ふてやることも實行が甚だ困難でありますから直に眞似することは出來難いと思ひますが、幼児の身體の清潔について家庭の注意を促すことは至極大切であります。新陳代謝が盛である幼児は兎角身體が不潔となり易く、貧民の家庭では幼児の清潔に不注意勝であるからこの方面を検査し相應の方法を講ずることは至極肝要と思はれます。

### 三、着物

幼児の着物がどんなものであるべきかに家庭の注意を促がすと共に服装の清潔を保つやうに努力せねばなりません。「着物をよごすな」といふ注意を與へるのではなく、「よごれた着物を着せて置くな」といふことであります。幼児の着物がよごれることの甚だしいのは當然でこれをよごさぬやうに幼児を束縛するのは不都合であります。しかしよごれた着物をさてゐることは幼児の保健上非常に不都合でありますから、保育學校では幼児の着物を着替へさせ、また洗濯する設備が必要であります。また幼児の着物はその運動を束縛制限することのないやうに適當なるものたることを家庭に理解させることも肝要であります。それで幼児の検査をなすときには身體と共に着物をも検するのであります。そして相當の處置をなすことが肝要であります。

### 四、規則正しい習慣

規則正しい習慣とは六ヶしきことを意味するのではありません。幼児の大便が毎日あるか否かといふことであります。毎日必ず一回の便通があることを規則正しい習慣の養成と稱するのであります。毎日規則正しく便通のあることは幼児の生活を順調ならしむるに至極肝要であります。それで保育學校では便通に關し十分注意を拂ひ適當な處置をなすことが肝要であります。家庭に於てもこの點に着眼するやう、毎日大便の有無を明白にして家庭に注意を促すのであります。

## 五、齒の注意

満二歳位の幼児でありますから充分を望むことは出来ないが、毎日齒を磨き口をすゝぎ、のどをがらがらさせることを實施させるのであります。口中の清潔なるべきこと齒の清潔なるべきことは文明生活をなすもの程肝要でありますから幼児のときより齒を磨き口をすゝぐことを習慣づける爲に保育學校で齒磨きを實施させるのであります。口をすゝぎ齒を磨かねば不快であるやうに習慣づけることは誠に肝要でありませう。勿論齒を磨く方法は十分指導して完全なるやうに行はしめねばなりません。

## 六、呼吸練習

鼻の掃除をさせ新鮮な空氣中で深呼吸をさせることが保育學校の重要な日課であります。鼻で呼吸することの肝要なことは説明するまでもないが、幼児には鼻で呼吸せず口で呼吸するものが少くありません。その爲めに呼吸器病にかゝり一般氣分がよくないといふ幼児が多いのでありますから常に鼻孔がスツトと通つてゐることを心がけさせ、新鮮な空氣中で深呼吸をなさせるのであります。幼児が深呼吸をすることを指導することは保姆として家庭の母として常に注意せねばなりません。鼻の格恰を云々するよりも鼻でよく呼吸し得るか否かを注意することが親として特に心掛くべきことでありませう。

## 七、食物

午前一回、ランチとして牛乳とビスケットをとらせるのであります。また十二時三十分に晝食をと



らせるのが普通であります。或る保育學校では小學校や幼稚學校のやうに家庭に歸して晝食をとらせる所もあります。しかし成るべくならば保育學校で晝食をさせる方がよいのであります。それは食事のよい習慣をつける爲にも、また幼兒に適切な食物竝に食事に関する理解を母親に得させる爲めにも都合がよいからであります。

#### 八、睡眠

晝食の後静かな室又は日かけて睡眠をさせることが必要であります。頭を一寸高くさせて約一時間位静肅にさせるのであります。そして午後六時半には夜の睡眠をさせるやう母親にすゝめるのであります。眠る兒息災とは英國の幼兒にも眞理でありますから、多くの時間安眠する習慣を養成するのであります。九、以上が主要な日課でありますがその間は成るべく自由に遊ばせるのであります。しかし大體の標準がありますからそれを述べると保育學校に來て身體の検査がすんだ幼兒は保育室に行くのであります。保育室で飼育してある動物の世話をしたり、草花の手入をしたり、また室内の整頓など幼兒に相當したことをするのであります。しかし保育室は朝は清潔になつてゐるから拭いたり掃いたりすることはありません。

大體幼兒が集つたところで、朝の集りをいたします。これには幼兒各自が腰掛を持つて來て圓形に並べるのであります。そして朝の簡単な祈禱をいたします。これは英國では凡ての學校で必ず行はれると

ところでありますから、保育學校でも必ず行ふ譯であります。しかし我が國では必ずしも必要でないことは明白であります。英國保育學校に於ける朝の集りては祈禱の後、出席をつけるために幼児の名前を必ず點呼するのであります。「今日も仲よく遊びませう」といふ意味を明白に意識させるためであります。皆の仲間入りをしたといふ氣分を起させるために、保姆が一々姓名を呼上げるのであります。若し幼児の誕生日に當つてゐるときは特に國王又は王妃の誕生日に歌ふ唱歌を以て祝はせるといふのであります。

これは我が國で實行する必要はありませんが、君が代を毎朝歌はせることは祈禱の代りとしてといふことよりも國民教育上甚だ肝要と思はれます。君が代の歌詞の意味は分らなくとも不知不識國民的意識を涵養する上には大に價值があると思はれます。

兎に角朝の集りに續いてお話をいたします。前日に起つたことなどをお話するのであります。それから玩具、或はモンテッソリーの感覺練習器を使つて自由遊びをなすか、戶外、花園で自由遊びをしてランチに及ぶのであります。ランチやデインナの準備後始末は悉く幼児に行はせるのでありますから、之が爲に相當時間を費すのであります。これは甚だ重要な教育的價值があると認められてゐます。

ランチから晝食まではゲームとかお話、繪をかくこと、粘土細工や紙細工をなすこと、また玩具で遊ぶことをさせるのであります。また晝食後睡眠してからは暫時自由遊びがあつて保育學校から家庭へ歸るのであります。

## 一〇、醫學的診察

尙ほ保育學校では醫學的診察を行ひ、幼兒の發育を記録するのであります。幼兒が保育學校に入ると完全な身體検査を行つて之を記録いたします。更に毎日の身體竝に精神發育の狀況を成るべく詳細に具體的に記録して置くのであります。毎月體重を測り、身長を測定して之を記録することも必ず實施するのであります。

### 三、保育學校の教師

(1) 保育學校の教師に要求すべき第一のことは誠實であります。第二は幼兒を愛することとあります。この二要素をもつものに特別な教育を施せばよい保育學校教師であります。而して特別の教育とは教育局が規定してゐる保育學校教師として必要なる課業と年限とを完結することとあります。それと

(2) 保育學校教師は (a) 幼兒の健康に特殊の注意を拂ひ、衛生的習慣を養成し、衛生的條件を満足せしめるものであること。(b) 廣義に於ける幼兒の教育的發展に留意すること (c) ナースの仕事以外に家庭生活と密接に齒科病院その他醫院を必要に應じ訪問すること等が必要であります。以上は英國保育學校の教師に對しての注文でありますから我が國の幼稚園保姆よりも看護婦としての素養を要求することが多いのであります。

(3) 保育學校の幼兒四十人を一人の教師で受持つことが出來ぬ。少くとも各保育學校には二人の熟練

せる助手を必要とするといふのが英國の保育學校に於ける幼兒と教師との數であります。この四十人につき保母と助手二人といふのは見習生を含んでの話ではありません。また保育學校の大小を問はないのであります。二歳以上の幼兒を收容してゐる所では主任保母の外に二人が必要であるといふのであります。尤もこの外に見習生徒を各保育學校に置くを必要とするのでありますが、是等の生徒は將來子供のナースとなるか小兒病院又は家庭でナースとして働く希望を有するものを收容すべきものであります。それで授業料を支拂ひ、コースを終るとナースの免許狀が附與せられる組織になつてゐます。それで四十人の保育學校では熟練せる主任保母、即ち園長と二人の助手の保母と更に二人の見習生とを置くのが適當であるといふのであります。

(4) 保育學校の教師を養成するには幼兒の保健發育に關する實際的知識を養成し、少くとも三ヶ月以上嬰兒又は小兒病院に於てナースの仕事を練習させねばならぬといふのであります。學科としては社會研究、心理研究。實際的技能として手藝や幼兒に適する簡單な料理、音樂、リズム、お話等が必要である。更に園藝と自然研究及文學につき教授するのであります。これは英國政府の保育學校教師養成所では二年を要することになつて居り、二十歳以下の婦人は二三年助手として働き、後保母となる規定になつてゐるのであります。

# 十月及び十一月の幼児生活

東京府女師附屬幼稚園 ト 部 た み

十月の主材

○遠足、散歩

○花壇の手入

○飼育動物の世話

○木の葉遊び、その他

(落葉、落花拾ひ)

○十月生れの誕生會

○遊戯練習會

○秋について

更衣、町の變化

秋の庭——種々の果物、草花、霜よけ準備

秋の田園——蟲類、鳥類

天候等

十一月の主材

○冬の仕度(寒さの準備)

○七五三のお祝ひ

○開校園記念日

○十一月誕生會

○園外保育

○飼育動物或は花壇の世話

○初冬の景色

(イ) 落葉

(ロ) 霜

(ハ) 霜よけ

(ニ) 木枯

(ホ) 氷

(ヘ) つらら

(ト) 殘菊

(チ) ダリヤ

(リ) 椿、さざんか

(ヌ) 紅葉

(ル) 錦木

(ワ) 冬葵、冬ばら

(ワ) 果物(みかん、さんかん) 其他 カ) 渡鳥

曜 週	第一	第二	第三
1	<p>自由遊び                      秋木、切紙、繪、花壇砂場等、十月になつた話、服装季節、果物等につき                      校内散歩、觀察                      遊戯、唱歌練習                      自由遊び(此間に文字調査)</p>	<p>自由遊び(同前)八時四十分より、白山、聲啞學校庭へ戶外保育                      広い庭、高臺よりの見晴山、樹木、池、鯉、草花等                      運動遊具、リレー唱歌遊戯とんぼ其他蟲追ひ、ボール投げ                      十一時半歸園                      自由遊び(主に繪をかく)</p>	<p>自由遊び(文字調査)                      昨日の記憶畫を二の粗が書くをみてまねるもの多し                      話し                      談話、(日本一の飛行機)                      折紙及繪に入る                      (主に飛行機及それに關するもの)                      校内散歩(寄宿舍の庭)</p>
2	<p>自由あそび                      昨日生活發表(幼兒、保姆)                      談話、繪による                      遊戯唱歌、練習                      カード遊び、籠ボール                      遠足についての話(諸注意)                      (天候てる、坊主の話、歌)</p>	<p>遠足                      午前七時三十分大塚驛集合                      八時池袋發                      八時半石神井着                      豊田公園着                      近くにて芋堀り                      自由遊び                      午後二時四十分大塚驛解散</p>	<p>談話、繪、切紙等凡て遠足に關するもの                      續いてお月見の話、仕度に入る、                      折紙(柿)を新たに教ふ                      遊戯、唱歌練習</p>
3	<p>自由遊び、日曜の話及び十月お誕生會に祝はれる人について                      贈りもの作り                      手技 室内裝飾の繪つなぎ                      會にするお話、唱歌の練習                      運動會にする遊戯練習                      雨の話(幼兒ながらも天候をきづかふ問答多し)</p>	<p>自由遊び、昨日のつゞき                      手技 折紙、切紙、繪、粘土、豆、キビガラ、紙テープ等                      談話(リレー、メンの音楽師)                      自由あそび                      會にする唱歌、お話遊戯等                      カード遊び、籠ボール、綱のスカンジナビヤマーチ練習</p>	<p>誕生會(尋一プログラム作る)                      談話(保姆其他の人三名)幼兒五名                      唱歌(獨唱、合唱等もあり)                      本よみ、遊戯 お話、遊び                      午後、スカンジナビヤマーチ、其他練習</p>
4	<p>自由遊び                      (主として旗作り)                      前日の續きをなし出來上りしものつなげて室内廊下等にかざる                      談話、夢の話                      (夢て動物の運動會に行つたお話)                      遊戯、唱歌練習 同前プログラムの話</p>	<p>運動會豫行</p>	<p>自由遊び                      (秋木、砂場、運動具遊び)                      旗作りのつゞきに導く應援の旗一本宛持つ                      校庭—銀杏寺散歩                      談話(運動會について)                      (天候について問答あり)</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	自由遊び (主に運動具、繪) 唱歌飛行機(新授)他練習 遊戯練習 色カード遊びリレー等 自由遊び (積木、繪、砂場、まゝごと) 談話(遠足)	自由遊び (主に繪、切紙積木) 八時四十分より 音羽護國寺境内へ戶外保育 午後一時歸園	自由遊び中に昨日の問答及繪に入る (記憶畫觀念畫) 砂場遊び (山、川、庭つくり) 唱歌飛行機練習及其他 遊戯同上(新授) 其他の練習
2	自由遊び、二の組にまねて 汽車遊びに入る 切符作り、お金作り、 プラットホーム作り 二の組と交々お客になる 漸次に二組の分擔に加へ てもらふ 唱歌、汽車(新授) 談話、狸々の旅行	自由遊び中一部分の子供桃太郎のお話遊びをなす、後全體演者ときゝ手にわかれ て遊ぶ 續いて兵隊、花のソングブ レ 手技、犬、猿、雄子の冠作り 自由遊び(食後も暫く續く) 唱歌汽車、練習 遊戯練習	自由遊び (リレー、ボール 投げ、綱引) 談話(象と鯨の綱引) 遊戯練習會(第一、幼合同) キングアボルカ、飛行機、月 夜の兎、桃太郎、牛若丸び よん太郎、ピアノ兵隊等既 習のものを行ふ
3	自由遊び 午前八時半出發 江戸川公園へ戶外保育 十一時半 鶴巻小學校着 屋上にて晝食 一時半電車にて歸園	自由遊び、男児は殆ど昨日 鶴巻で見た劍道をまねて遊 ぶ繪、自由談話、電車遊び、 まゝごと、 電車遊びを比較的系統的に 指導す。 切符作り、車庫作り 方向作り、お金作り 停留所問答 午後遊戯練習	校内散歩、校門前往來觀察 (主として色々の車につ いて) 繪、(電車、自動車多し) 談話(運動會のたのしみ) その仕度として旗作り (半紙一枚に圓形を書き 與へ中を塗らしむ)
4	運動會 (附屬小學校と合同)	自由遊び 運動會に就て昨日の校内新 聞を室内に貼り問答、繪、 談話に發表せしむ 十月分身體検査 自由遊び 籠ボール、色カード遊び其 他	校内銀杏寺散歩 銀杏の色、菊、山茶花、もく せい等サルビヤの落花、櫻 の落葉其他の落葉を拾ひ、 綿の上にとらし或は紙に貼 り落葉の展覽會をなす

曜  
週

三 第	二 第	一 第	曜 週
<p>明治天皇祭 (明治天皇の御聖徳のお話) 後本校小學校の運動會を見て歸る。</p>	<p>自由遊び 砂場、積木、繪、貼紙、紙テープ、其他の指導 唱歌、をどれ第一段練習及其他、ブレイメン音楽師 音と聲のきき分け遊び 自由遊び 幼二の樂隊をきかしむ リレー 綱引</p>	<p>自由遊び(日曜生活の話) 本校々庭より寄宿舎の庭へ 落葉拾ひにい 銀杏、樺、榎、紅葉、菩提樹 ほか桐の實どんぐり其他 採集物をならべて遊ぶ 實物に對して圖書切紙貼 紙紙アイソ等とり葉を製作 唱歌、をどれ(新授)第一段 遊戲同上 其他練習</p>	1
<p>自由遊び 昨日のつき(花やごっこ) より植物園ごっこに入る (砂場、草花切紙まじり等) 一、二組合同して行ふ 入場口造り、切符つくり、 飯事案内人、其他 談話(赤ちゃん羊) 自由遊び(貝合せ)ビヨん太郎 カルタ唱歌、遊戯おどれ第三段</p>	<p>折紙(風船)おみやげとす 談話、(紙風船) おどれ一二段其他遊戯練習 にてカンニ其他を作る、唱歌 おどれ一二段其他遊戯練習 にてカンニ其他を作る、唱歌 おどれ一二段其他遊戯練習 にてカンニ其他を作る、唱歌</p>	<p>自由遊び 花やごっこ(校庭、銀杏寺 落葉遊びを机にならべ賣 落葉落花を机にならべ賣 買遊びをなす ついでに備用紙五色紙等 にて花をつくりて加へる おどれカンニ其他を作る、唱歌 おどれ一二段其他遊戯練習 にてカンニ其他を作る、唱歌</p>	2
<p>自由遊び 遠足ごっこ 汽車、省線、市電になる切 符造り、列をつくつて歩 く送りむかへ、おべん 當造り等 遊戯キュービー第一段 其他練習 談話(明治神宮參拜につ て)</p>	<p>自由遊び 昨日のお祝の子供の話 (神社參拜或は家庭の話) 昨夜のあらしの話 談話(天狗喰ひの話)より 繪に導き内容に關し自由に かゝしむ。 校内散步(本校庭) 「リレー」走巾とび)第一段 唱歌(キュービー)第一段 樂隊遊び</p>	<p>自由遊び(同前、小鳥觀察) 〇七五三祝ひの贈物つくり 續き まきとめて包装して宛名を かく 〇お祝の會(挨拶、贈物、談 話) 〇牛天神(參拜(觀察) 唱歌) 遊戯(既習の練習)</p>	3
<p>自由あそび 誕生會準備 十時より誕生會 (實習生送別會も兼ね) プログラム略 自由遊び</p>	<p>自由遊び 昨日のつき、贈物其他作り 散步(校内) 空、雲、太陽、池、七面鳥、 文鳥、カナリヤ、雞、其他 花壇の草花木々の葉の色 等觀察せしもの名を順 にいはいしむ。 物まはし遊び ボール投げ 自由遊び 其他練習 明日の練習</p>	<p>自由遊び 十一月生れの方(贈物造り 室内裝飾のお手傳ひ(手技) お話、遊戯、樂隊、其他練習 談話、雀のお宿 唱歌(雀)新授 自由遊び</p>	4



曜 週	第 四	第 五	第 六
1	自由遊び 昨日の話、或は繪とて發表 其他の繪、面造り、目鏡作 り 談話(太郎の笛) 二の組の樂、遊びをきく (シンバル、トライアング ル、太鼓) 指導 唱歌(おどれ、其他 遊戯)おどれ、其他 明日(園外保育)の話	午前九時出發。九時半着。 廢病院行 庭園、草花、樹木、紅葉、飼 育動物、鳥類、蟲類、其他 の觀察 (唱歌、遊戯、運動、練習)	自由遊び 談話(豚の兒の話) 園畫に導く 唱歌(花)數(遊びの歌(兵隊、 おどれ第二段に入る 遊戯 同上及其他
2	自由遊び 談話(お囃の卵)子供の國より 話の内容から解決へと要 求する子供は次々と想 像するを繪に發表せしむ 卵、お日様、風、お月 様等 是を室内に貼り又一しきり それにより語る 自由遊び (スプリング、旗送り、 カード遊び)	自由遊び 焚火にあたりながら談話 (七五三のお祝其他) 五つ、七つの方にお祝の贈 物作り、園畫、折紙、等手技 指導 唱歌(おどれ、其他練習) 遊戯(おどれ、其他練習) 自由遊び 砂場、花壇、小鳥、其他	自由遊び 昨日のついで(贈物づくり) 手技 散歩 小學校庭より、校舎内各教 室を巡る 標本室、理科室、裁縫室等 唱へ入り問答 唱歌、遊戯、練習 談話(日曜日のためのみ)
3	明治神宮(園外保育 九時七分大塚發 九時廿七分原宿着 神宮參拜、境内めぐり 食事(十一時卅分) 寶物堂前庭園、代々木原 二時五分大塚着	自由遊びから昨日の記憶畫 觀念畫をか、しむ 飛行機、騎兵、鳥居、拜殿、 五重塔、池、金魚、紅葉、タ ンク、電車等 談話(虎の明神) 唱歌(遊戯キユービ第二段 其他練習) 散歩 (傳通院より澤藏司方面)	自由遊び(談話) いよゝ寒さに向ふ ストウブ、火鉢設備 等 の事 風水、外套綿入の事 數(遊びの歌)花冠帽子作り それにつけて遊ぶ 其他遊戯練習
4	自由遊び(同前) ジョン太郎カルタ 談話、三匹熊 お話遊びに導く問答 (保姆對幼兒、幼兒と幼兒) 園畫に入る 熊のお家、スプリン、皿、 椅子の大、中、小等 唱、遊(雀外練習)	自由遊び お話遊び(三匹熊ついで) 桃太郎 遊唱、(同前) 身體検査、(十一月分)	自由遊び 砂場の掃除の手つたひ 散歩(觀察) ザク、錦木、つらら、霜 柱 霜枯れの菊、ダリヤ 銀杏、其他 校門前の往來 談話、お友達 唱、遊、練習

生活全體が遊戯である子供にとつては、子供の遊びをうまく指導する事が教育である事は、前にも申上た通りで御座います。

特にその精神生活は主として感覺の世界に限られてゐる此の時代の子供には、感覺の練習は最も必要な事であり、なほ其の心身の發達のために、眞の要求する處即ち子供の本能活動の現れ、その傾向、その種類に注意し、どんな動きに最も興味を持つてゐるかといふ點を考察し、絶えず其指導に工夫していき度いと存じます。

此度は日誌の摘記の代りに、そんな意味で扱つてゐる前記表の中に記しました遊び即ち「ボール遊び」又は「色カード遊び」「お話遊び」等について、順に御話申上げ御批評を願ふ事といたします。

先づ初めに色カード遊びから申上げます。

### ○色カード遊び

入園當初の幼児の中には、色の觀念のはつきりしてゐない者が多う御座います。尋常一年に初めて入つて來た子供の中にも七色圖に就てその名稱を正しく云ひ得ない者が少くありません。殊に綠と青、黄色と橙色等の區別は困難なのがある様に思ひます。

折紙をする間に、色板其他の恩物を扱ふ間に、クレオンを使ふ間に、玩具をもてあそぶ間に、其他あらゆる環境から絶えず色についての問題は取扱ふ事が出來ます。幼稚園として比較的團體遊びの中に興

味をもつて運動しつゝ大切な基礎觀念を養つていく様色覺の練習を織り込んだ遊びが是れてあります。  
用具即ちカード。

— 大きさ。(縦十七糎、横十二糎位)

— 色(赤、紫、青、綠、黄、橙)以上六色を一組とす。

— 數(幼兒一名につき一組を要する場合もあれど、凡そ一組三十六名に對し七八組位)

遊び方、I(色合せ)I.

— 一列圓形に子供をならばせ、その中央に赤、青、黄のカードを置く。或は一列横隊に整列、適當の距離をおいた向側線上にカードを置く。凡そ二十名宛を限度とし、一組の人數多い時は男女別にするもよろし。

— 「ヨイドン」等の合圖でカードの處へ走り行き自分の好きな色一枚をとつて來させる。

— 一、取つたカードを高くあげて互ひに見合はせ同じ色の者同志一つ所に集り名をいはせる。

(色の名稱は初めのうちはむりにいはせずともよろし)

— 之を反覆しつゝ次第にカードの數、色の種類を増す。

遊び方、II(色調べ)

— 圓形にならばせ、圓内にカードを散らしおく。合圖により次の事を繰りかへさせる。(配列は色々あるが初めは圓形が便利である)

一、好きな色を拾つて来て高く舉げて順に色の名を云ふ。

一、指揮者の示す色、或は呼びあげた色を持つてゐる者は高く舉げる。

一、二色の名をよばれてとりかへる。例へば「赤と緑」ときけば、赤をもつてゐる者と緑を持つ者と、カードをとりかへる。

一、異色のカード二枚拾ふ。順次數を増す。

一、同色のカード二枚、それと異なる色一枚を拾ふ、順次その數を増す。

この時幼児の自由にする時と命ぜられた色に限る時とあり。

### 遊び方、Ⅲ(色合せ)2.

直線に列ばせ、適當の距離を隔て、カードを散らし、更に隔て、同じ間隔に六つの圓をかく。圓の中には六色各々の目標となる色カードをあくか又は旗を立つ。

一、合圖で走り行きカードを拾ひ、それと同色の圓の中に集る。

一、拾つたカードを、それと同色の圓の中に入れて舊の位置迄走り歸る。なほ進んでは同一の圓に集つたカードの數へ方等も初まる。

是等は初めの間は色の觀念を明かにするため、色を間違なく合はせしめる事につとめ、漸次にその色と名稱が正しく結びつく様指導します。

以上の如く大抵指導者が全體にむかつて號令的に要項をいひ渡して、その通りに動作せしむる時は、自然この間命令を聽きわけける注意を養はれると思ひます。なほ此の程度の間は團體遊びとしても、殆どむつかしい規則のあるわけでもなく、又無理に勝負を定めるのでもないために極く幼児らしい活動が出来ます。

場所は戶外でのび／＼走りまはれる處がよろしいのですが、雨降りの日などは遊戯室で、又室の机の上で充分に面白く工夫を加へて遊べます。

色覺練習としてもなほ發展した遊び方がありますが、なほ是を數生活の指導の方面からみても色々面白い遊び方が考へられると存じます。

今春三月アメリカから贈られた可愛いお人形の御札に、日本全國の子供からあくられる倭日出子、東京花子さん達五十八人のお人形は四日に盛な送別會を明治神宮外苑の日本青年館でして戴いて、いよ／＼今日、天洋丸で横濱を出帆しました。友禪縮緬のお重ねに縹珍の帯の立派なきもの、お箆筒、鏡臺、長持、燭臺に繪日傘、お化粧道具までお持ちの日本のお嬢さま、何んなにかあらうて歡迎されることとせう。(十一月十日)

## 私の幼稚園

水島 さゆり

—— 養蠶の巻 ——

園長さんと、幼児一人の幼稚園。園長さんは私、幼児は同じ塀の中の隣家の男の兒、名は時雄、六歳。二人の出會つた處が隨時キンダーガーデンとなる。

時雄「水島さん、遊びましょよ。」

園長「いらつ、しやあつ。( )」

時雄「はあーあつ。」

時雄勝手口から這入つて来る。園長居間兼客間兼書齋での書見を中止して、ニコニコしながら、狭い縁側へ出る。時雄とりつく。近處のシヤモが一聲高く時を造る。

園長「『トキヲサーン』と雛が鳴きましたよ。」

時雄「アハ、ハ、ハ、ハ、あの雛は時雄の名を知つてるねえ。」

園長「知つてますとも、此處へ来る雀だつて、『トキチツチ、トキチツチ。』つて鳴きますよ。あんまりよ

く知つてゐるから、水島さん驚いちゃいましたよ。」

時雄雀は來てゐないかと、一坪餘の庭の方——二三本の細い木と、隣家の屋根とが、間の板塀の存在を無視して押つくらしをしてゐる——を眺める。

時雄 「アツ、蓑蟲」

團長 「蓑蟲だ、採りませう。」

時雄 「うん、採らう。」

蓑蟲楓の枝から一尺程ぶら下つて、いさゝかの秋風に揺られてゐる。着て居る蓑の中に、葉つ葉のかげらの並はづれて大きいのが交つてゐて人目を引く。

團長 「水島さんがうまい工合に採りますよ。」

時雄 「時雄が採るんだ、時雄が先へ目附けたんだよ。」

團長 「水島さんだつて時雄さんと同じ時に目附けたんですよ。」

時雄 「だつて水島さん黙つてたぢやあないの。」

團長 「さうね、ぢやあ、チャンケンしようね、勝つた人が採るのよ。」

時雄 「うん。」

二人「チャン、ケン、ボン。」

園長「ほら水島さんだ。」

時雄「つまらないなあ。」

園長縁側から手をさし伸して、養蠶の絲を、見當て握り、時雄の目の前へ養蠶を浮かせる。時雄  
養蠶を縁側へはたき落す。

園長「アラッ、養蠶がびつくりしちゃいましたよ。」

時雄「痛かつたかしら。」

園長「痛くて、痛くて、泣いてるでせう。」

時雄「養蠶つて鳴くの。」

園長「鳴きますよ、聽いて御覽。」

園長養蠶に近く縁板へ耳を着けて聽いて見る。時雄真似る。

時雄「鳴いてゐないよ。」

園長「鳴くんだがなあ、どうしたんだらう。」

時雄「何て鳴くの。」

園長「父よ、父よつて鳴くの。」

時雄「チよ、チよつてなあに、ち乳のこと。」



團長 「ちがふの、ちとつちやん、ちとつちやんつて事よ。」

時雄 「なぜちとつちやん、ちとつちやんつて鳴くの。」

團長 「それはね、養蟲のお父さんがね、此の養を着せてね、『養蟲や、今にな、秋風が吹くやうになつたら来るからな、ちとなしく待つてろよ。』つてね、養蟲を置いてけぼりにして、何處かへ逃げて行つてしまつたのよ。養蟲は置いてけぼりにされた事を知らないもんだからね、ちとなしく待つてゐたのよ。よするとね秋風が、カサ、カサ、カサと吹いて來たの、養蟲はね、『アラ秋風が吹いて來たわ、ちとつちやんが来るわねと思つて、『ちとつちやん、ちとつちやん。』と呼んだのよ。でもちつともちとつちやんが來ないでせう、だから、何遍でもちとつちやん、ちとつちやんと言つて鳴いてるんてすつてね。」

時雄 「ヤア、養蟲が頭を出したよ。」

團長 「さはるとひつこめるよ。」

二人養蟲の頭の出沒に興じ合ふ。養蟲養から半身を出して少し這ふ。二人益々興じる。

時雄 「養蟲裸にしようか」

團長 「ちとつちやん、ちとつちやんつて泣くと可哀想ね。」

時雄 「なぜちとつちやんばかし言ふの、お母さん無いの。」

園長「ほんとにね、お母さんはどうしたんでせうね。」

時雄「蓑袋の蓑から葉つ葉の大きい断片をちぎつてしまふ。小さい断片も幾つか取つてしまふ。」

時雄「水島さん、裸にしてよ。」

園長「ひどくすると、蓑蟲が死んでしまひますよ。ほら袋にはいつてゐてせう。此の袋を上手に破かない

と、蓑蟲は潰れて汁を出しちやいますよ。」

時雄「銚て切つて。」

園長「よし、切つて上げませう。」

園長「蓑袋を切割いて蟲を出す。」

時雄「出た、出た。寒いからあんなにしてら。」

園長「寒いね蓑蟲、蓑を取られて眞つ裸だ。」

時雄「枯れた葉つ葉を採つて来て、着せない？」

園長「着せませうね。今度は綺麗な着物をね。」

時雄「うん、どんな着物。」

園長「温いやうに毛絲の着物にしよう。」

時雄「い、ね。どやつて着せるの。」

園長 「時雄さん叔母さんに色々な毛糸を貰つていらつしやう。」

時雄庭と反対側の、園長の居間兼客間書齋の窓の所へ行つて、大聲に、

時雄 「叔母さん、色々な毛糸ちやうだい。」

叔母隣の家から返事する。

「はゞ〜。どんな色。」

時雄 「赤とね、青とね、白と、緑と、それからえーと。」

園長 「紫とね。皆少しづつてらゝのよ。」

叔母窓の下へ五色の毛糸を持つて来る。園長小さいボール箱の蓋を持つて来て裸の蓑蟲を入れる。

園長 「時雄さん、さあ此の毛糸を細く刻んで、蓑蟲へ掛けてやりませう。」

時雄 「面白さね。」

二人缺てて毛糸を刻む。蓑蟲毛糸の断片が掛つても動かない。時雄手を止めて蓑蟲を凝視する。ボ

ール箱の底、五色の文を濃厚に織る。

園長 「五色の着物だ、そら着ろ、やれ着ろ。」

二人蓑蟲の上へ振掛けてやる。蓑蟲身じろぎ一つ見せない。

時雄 「ちつとも着物着ないね。」

園長「どうしたんでせうね、こんな綺麗な着物、早く着ればいいに。」

隣から時雄の母の聲がする。

「時雄、御飯ですよ。」

時雄「蓑蟲から眼を放さず、動かうとしなさい。」

園長「時雄さん御飯ですつて。早くいらつしやい。お午から又いらつしやい。」

時雄「はい。蓑蟲どうして置くの。」

園長「此のまゝ此處に置させよう。」

.....

二三時間の後時雄又来る。園長茶の間で縫物をしてゐる。

時雄「水島さん、蓑蟲は。」

園長「さどうしたか、見て御覽。」

時雄「縁側へ出る大きく歓聲を擧げる。」

時雄「着たよ、着たよ、ウフ、、、、。」

園長飛んで行く。

時雄「アラッ、着た、着た、アハ、、、、綺麗なねえ——。」

箱の中に、五色の塵一つも餘さず、ふつくりと着込んだ蓑蟲が、美しい衣裳を誇らしげに、ゆつ

たりと構えて居る。

園長「養蟲さん、いゝちべへ。」

時雄「おとつちやん來んでも泣かないね。」

園長「五色のおべへて、毛絲のおべへ、養より上等。」

二人大喜びの體。

時雄「養蟲うちへ持つて行つてもいゝ。」

園長「いゝとも、大事になさい。あ、何か食べる物を入れてやりませう。」

園長楓の柔さうな一葉を採つて、養蟲の側に入れてやる。時雄喜色満面て箱を持つて行く。

.....

夕方突如として時雄の泣聲起る。園長隣の方へ聽耳を立てる。

時雄「お母さん。養蟲がゐないよう。」

園長駈出して隣へ行く、隣の縁側に、ボール箱の蓋がある。中に少し喰つた跡の見える楓の葉が一枚遺つてゐる。養蟲は影も形も無い。時雄の母、園長、時雄縁側の隅々、縁の下から庭の樹々まで、仔細に搜索する。

五色の衣を纏つた養蟲は完全に姿を隠してしまつた。夕闇が迫つて、秋風が吹く。

園長「養蟲やゝい、養蟲いゝ。」——終——

# 童謡遊戯の振と表情について

戸 倉 ハ ル

前號に「童謡遊戯の振について。」と題し、ちよつと載せていたときましたから、今度は童謡遊戯の振の生命とまで云はれてをります表情について、少し述べさせていたきます。

表情とはどんなことか

表情とは情緒に伴なうて生ずる身體的變化で、一言にして申せば感情表示の状態であります。即ちわれ／＼の喜怒哀樂の感情が起つてきた時、之に伴なうて生ずる身體的變化をいふのであります。例へば嬉しい時には嬉しい顔付や、身振をしたりする様に、われ／＼の精神の變化が身體に影響して來るのであります。さうして、精神上の變化が強ければ強い程、身體にもそれ相當に強い變

化を起して來るのであります。かゝる精神作用、殊に感情に伴なつて起つて來る身體的變化を表情と申します。

表情の種類

表情の種類には、第一に、血液循環の變化、呼吸作用の變化、分泌排泄機能の變化等から來る内部的のものがあります。

例へば或る強烈な刺戟に感激し、餘り滿面朱を濺いだやうに赤くなることがありますが、これは血液循環機能に變化を及ぼした爲めでありませう。

第二は、四肢、發音機、官、顔面等に起る外部的の變化でありまして、例へば多勢の前で初めて演説したり獨唱でもした場合聲が震へたり、出なくな

つたりしますのはこの類で、これは、發音機官に變化を起した一例であります。

### 表情の差異

表情は、年齢・性別・民族・教育等に依つて差異があります。以下各項にわけて略説することにいたします。

#### (1) 年齢

表情は、第一に年齢に依つて違つてまゐります。子供の時の表情は荒ぼくて、決して細かには出来ません。然し非常に強く大きく表はされます。この點は童謡遊戲の振の上に大に考へねばならぬところと思はれます。例へば泣く時には大きな聲を張り上げ、力一杯に顔を歪めて泣きますが大人にはさうした表情は出来ません。すべて表情は成人になるにつれて、だん／＼柔かに細かになつて來るのであります。

#### (2) 性別

男と女との表情を比べて見ますと非常に違つております、一般に女は感情を外部に表はし易いやうであります。

#### (3) 民族

世界中日本人ほど無表情の國民は無いとまで云はれてをります。これにはいろ／＼な原因があります。ませうが茲には省くことにいたします。

英國人は稍々日本人に似てゐるところがあつて、矢張り表情には乏しい國民だと云はれてをります。

佛國人は尤て前者と反對で、豊かな表情を持つてをりまして、黙してをつても始終物を云つてゐるやうな態度があります。

獨逸人になりますと、全く無表情不格好で、滅多に感情を外に出さないとはいはれてをります。

伊太利人について申しますと、表情が餘程巧で、世界民族中一番美しい表情を持つてゐるといはれ

てをります。

以上は唯代表的民族の表情について述べましたが、もつと各國民について調べて見ると、餘程興味ある問題と思はれます。

#### (4) 教育

教育の有無は表情に非常な關係を持つてをります。教育の有るものゝ態度、顔附と、無いものゝそれとは、大へん違つてをります。一般に教育のあるものゝ表情は上品で柔かてありますが、教育の無いものゝ表情は下品で荒ばいのであります。

#### 感情と表情

感情と表情との關係については次の二説があります。私が私どもは最も穩當な第(2)説に従ふことが至當であると思はれます。

#### (1) ジエームス、ランケの説

この説では、表情が先になつて、然る後に感情が起るものだと主張してをるのであります。例へ

ばわれ／＼は可笑しいから笑ふのでなく、笑ふから可笑しい、即ち笑顔をするから可笑しくなるのであると云ふのであります。「悲しきが故に泣くにあらず、泣くが故に悲しきなり。」とはこの學説の主旨を語る有名な套語であります。

#### (2) 反對説

前の説に對しては、いろ／＼な異論があります。が、最も普通であり穩當といはれてをりますのは感情が先に起つて、然る後に表情が生ずるものであるといふ説であります。即ち嬉しいから喜び、悲しいから泣くといふ方であります。

#### 靜的表情と無表情

人間には、靜的表情と無表情との域があります。表情は多くの場合身體の運動に依つて生ずるものであります。それならば靜止の時絶對に表情が無いかと申しますと、さうではありませぬ。口をきかない、全く靜止の時本當に生きた表情が表はれ



ることがあります。沈黙の美しい姿勢から言語よりも深い尊い聲なき聲を聞くことがあるではありませんか。更に進んで感情が眞に靈的に働いてゐる場合は、全く無表情ではありますが、靈の活躍は十分に認められるのであります。

表情はどこに一番表はれるか

表情は身體のどんなところにも表はれますが、一番よく表はれるのは顔てありませう。顔にはたくさんの細筋があつてよく微妙に働くのであります。爲めにどんな小さい感情でも表はされるのであります。そこで顔面筋肉の運動が表情だてまで云つてゐる人もあります。而して顔の中でも、眼と口とが一番表情に關係がありますから、少し申し上げることにいたします。

眼の表情

眼の表情は大體視線の動き工合と眼の開きとて表はされます。

#### (1) 視線の動き方

視線が活潑に動く場合は心が活潑に働き、ごく鋭敏な精神を表はしてをりますすが、精神疲勞に陥つてゐるとか、又は無意識の状態て何等考への無い時はボンヤリとしたまなざしをしてをるのであります。

次に眼光てありますが感情のゆつたりとしてゐる時は何んとなく柔か味があります。

視線が纏つて何か物を見詰めてゐる場合は精神上一種の力を示して居つて精神が或る物に集中してゐる時を示すのであります。之と反對に視線が纏らないて眼がフラ／＼してゐる場合は、注意散漫の状態か、又は物に恐れた時か、若しくは物に恥ぢた場合などに表はれるのであります。

更に視線の方向について申し上げますならば、視線が上向きて遠くを見詰めてゐる場合は、所謂冥想に耽つてゐる時であるとか或は宗教的境涯に置

かれた時などに多いのであります。

(2) 眼の開き

眼を大きく開いた場合は物に驚いたときとか、又は注意を集中した場合などに示す精神状態の表情であります。

次に眼を細くして眉間に皺を漂してゐる場合は、不愉快な情緒を示す表情であります、

口の表情

(1) 苦味を感じた場合

口を少し開いて、少々鼻翼を上げ不愉快な表情であります。

(2) 甘味を感じた場合

甘い物を嘗めた時の表情で快感な表情であります。

(3) 咬みしめた場合

口の角が少し下つて、何か決心をした表情であります。

(4) 酔っぱい場合

酔っぱい物を嘗めた時のやうな口付で泣顔を示すのであります。

以上顔面の表情について常識的に申し上げましたが尙ほ身體の表情についても研究するところがたくさんあると思はれます。要するにわれわれは現今盛んに行はれてゐる童謡遊戯振興の上から見ても、表情については今後もつと研究を要することゝ思はれます。



# 幼稚園のお話

久門 嘉祐

## ライオンの赤ちゃん

或る山奥の岩穴にライオンが住んでゐました。

其のライオンのうちに今年初めて赤ちゃんが生れました、お父さんライオンもお母さんライオンも喜びましたね、それは、大喜びをしました。

そして可愛がつてゐました。或日お父さんライオンは朝早く起き支度をして坊やお父さんは向ふの山へ行つて何かよいおみやを持つて歸つてあげるよ、おとなしくしてゐらつしやいよハイチャ——  
あう——ハイチャが出来る坊やは何といふありてうであらう。ハイチャ——とお父さんライオンはニコ——お山へ行きました。あとで赤ちゃんライオンはおとなしく遊んでゐましたが、お十時

になつたので大きな岩の蔭でお母さんのお乳をいただきます、すると赤ちゃんライオンはよい氣持になつてグウ——寝つてしまひ一つよにお母さんライオンもうと——と寝つてしまひました、少時してお母さんライオンが目を覺まして吃驚しました。いつのまにか赤ちゃんライオンがゐなくなつたのですもの、お母さんライオンはとび起きて坊や——坊や——と捜して歩きましたがもう家中どこにもゐません、お母さんライオンはワア——泣きながら坊や——と表の方へ捜しに出ました。  
丁度そこへお父さんライオンがおみやを手にとらさげてニコ——歸つて來ました。そして坊やがゐなくなつた屹度誰かがさらつて行つたにちがひな

いとお母さんライオンの泣々の話を聞いてお父さんライオンはもう腰を抜かさんばかりに驚きました。よしそれなら屹度向ふの山のものがさらつて行つたに違ひない、これから向ふの山へあばれ込んでどいつもこいつも残らず喰ひ殺してやらうとそれは／＼山も崩れるかと思ふやうな聲でどなつてゐます。そこへいつもライオンの小父に可愛がられて居る隣山の兎吉が山を越へて向ふの山の兎三郎の所へ行ふとして丁度山のふもとまで來たときにライオンの怒喝つて居る聲を聞ききましたから吃驚して立ち止まり山をふと見ると兎吉のすきな／＼ライオンの小父さんが火のやうに怒つて居るのを見ましたから、あら小父さんじゃ、これは大變と一生懸命ビョン／＼はねて山を登りライオンの小父さんの側へ行きました。そして小父さんどうしたんですと聲をかけますと、ライオンは後を振り向き／＼兎坊かまあ聞いてくれ、うちの坊

やを向ふの山のものがさらつて行つたのじゃ、わしはこれから向の山へ行きどいつもこいつも喰ひ殺してやらふと思ふのじやと申しました。兎吉はこれをきいて、あやつ、可愛い坊つちやんをさらつて行くなんて悪いやつてございます。けれども小父さんまあそれは待つて下さい、小父さんが向ふの山へあばれこんでどいつもこいつも喰ひ殺すのはよいとしても若しも赤ちやんが怪我をしてはなりません、まあ／＼待つて下さい。僕が行つて取戻して來ませう屹度です／＼と兎吉は優しくライオンの小父さんの脊を撫てました。聞いてライオンの小父さんなる程兎坊の言ふとほりじやそれではお前に頼むどうぞ坊やを連れて戻つておくれ、小父さん一生のお願ひだからね、ては家へ歸つて待つて居るよとライオンはのそ／＼お家へ歸りました。兎はよろしうございます、大丈夫です／＼と兎吉はせい一ぱいの力を出してビョン／＼

山を下り又山を上つて向ふの山へ行きつきました。ところが此の山の者はさつきライオンの小父さんが怒鳴つたのが聞えたと思つて皆内へ逃込んでしまひ戸をびつしやりと締めて誰一人として外に出て居るものもなく何の音もさせず、ひつそりかんとして居ります。兎は此の様子を見てこれは困つたな、まあ兎三郎さんの所へ行つて見ようと兎三郎の所へ行き戸をトン／＼と叩きましたすると中でそ／＼あ来た大變／＼と泣くやら大騒をしてゐます。兎吉はハハア、ライオンの小父さんが喰ひ殺しに來たと思つて居るのじやな、オイ兎三郎さん僕です／＼兎吉です、どうぞこゝを明けて下さい相談があるんですと大きな聲で申しました、すると中でだめ／＼ライオンがあんな兎吉のまねをしてうつかり明けると大變々々とどうしても戸をあけてくれません、兎吉は困つたなお猿さんの家へ行つて見ようと思つたお猿さんながら、お猿の所へ

行きトン／＼／＼戸を叩きました。すると中でそ／＼あ来たと皆角つこに小さくなつて物一つ言ふものはありません。兎吉はだめだ熊小父さんの家へ行つてトン／＼戸を叩き熊の小父さん僕です／＼隣山の兎吉ですどうぞこゝをあけて下さいお小父さんに少し相談があるんですとせい一つばい大きな聲で言ひましたがぶつ／＼とも返事をしてくれません。ほんとうに困つたどうしたらよからうと兎吉は首をかしげて少時考へました。あゝそうじや僕の好きな謠を謠ふそうじやそふすれば皆いつものやうに見にくるかも知れぬと廣場へ出て思ひ切りよい聲で謠ひ面白そうに踊りまわりました。すると今まで戸をしめて内てこわがつてゐた兎三郎も狸も狐も熊も猿も駱駝もがら／＼と戸をあけて皆言ひ合したやうに廣場へ集まつて來ました。そして手を叩いて喜んでゐます。そこで兎吉が一段と聲をはりあげて皆さんの内でライオンの

坊つちやんをさらつて来て居るものがあればすぐに茲へ出して下さい僕が連れて歸つてライオンの小父さんにはよくあやまつて上げます早く出して下さい、ぐずぐずして居るとライオンの小父さんがこゝへあばれ込んで来て皆を喰ひ殺してしまふとまあく大層怒つてゐますと言ひました。皆は又こわくなつてぶるく振へながら僕じやない私ではないと言ふて誰一人として私じやといふものはありません。そこで兎吉は皆の顔を順に見廻はして困つたな、なる程此の中にはないようじや困つたなくとがつかりしてゐます。すると友達の小三郎さんは誰かがさらつて来て居るものが屹度あるんだらうにとずへと皆の顔を見廻はしました、そして、しめたといふやうな顔をして虎のお父さんがゐないよと申しました。すると側にゐた狐があゝ虎の小父さんは今しがたのそく歸つてあゝお腹がいたいくと言つて寝てゐたがもうぐ

うく寝つてしまつて居るよと言ひました。すると皆が虎の小父さんくと總立になりました。そこで兎吉は、まあく皆さん待つて下さい、うかつなことをして虎の小父さんにあばれたらこれも大變です、これは私にまかして下さいまあく皆坐つて下さい。と皆を静め兎三郎をつれて二人で虎の家へ行き二人掛りて力一ぱい出して戸をあけました。そして中の様子を見ますと虎は大いびきをかいて寝つて居りますから二人は足音のせぬ様に内にはいりました。そして兎吉は持つて行つた藁すべで虎の小父さんの鼻の孔をクスくくすぐりました。すると虎の小父さんは、クシヨンくくと大きなくしやみを三つしました。其拍子にライオンの赤ちやんがひよこり飛び出しました。そこで兎三郎が急いでライオンの赤ちやんを抱いて廣場へ急いで戻りました。兎吉はそつと表へ出て戸を前の通りにしめて廣場へ戻りまし

た。そこで皆さんライオンの赤ちやんを連れて戻りました。早速私がお連れしてライオンの小父さんにお渡しよくあやまつておきますもう大丈夫ですと申しました。皆も大層喜びましたお蔭でまあ命は助かつたと兎吉に山程お禮を言ひました。兎吉は皆と別れて一生懸命にビョン／＼はねてライ

オンの小父さんのお家へ戻りました。ライオンの小父さんと小母さんは只々心配そうに兎吉の戻るのを待つて居りました。小父さん今戻りました赤ちやん連れて戻りましたとライオン赤ちやんを小母さんに渡しました。二人は喜びましたよ。それは／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼流して兎坊ありがたう／＼と百も千もお禮を言ひました。このことをお月様が大空で見つゝゝらして、あゝ兎坊はよい子じや／＼と早速雲をお使にしてお迎によこしました。兎吉も大喜びで雲にのりビョン／＼はねて雲の中を空へ空へとはねて上りお月

様に行きまして、そしてお月様の御殿でいつまでも／＼仕合にくらすやうになりましたとさ。

### 天狗の團扇

岡崎市熱岡幼稚園

安間公観

或るところに、健ちやんといふ——それは／＼元氣の好い子供がありました。

天氣の好い日に、たつたひとりて裏の山へ遊びにまゐりました。——それは丁度秋のことでしたから、山には栗や松茸やしめぢが澤山ありました。

健ちやんはさすが山の近くに<sup>す</sup>住んでゐる子供だけあつて松茸やしめぢなどを見付けることが大變上手です。

「おや！こんなところに、また松茸があつたぞ。……や！や！しめぢもあるぞ。」

と、ひとりて叫びながら、だん／＼山の奥の方へやつてまいりました。

暫くの間健ちゃんは、もう兩方の手に持てない位澤山、松茸やしめぢを取りました。

「もう、僕、持てやしない。……よし／＼懐中へ入れてやれ。」

と、汚るのもかまはないが懐中をねぢ込む……懐中がポコーン！と膨んだ。

よし／＼これで好い。こんどは栗を拾つてやらう。

とまた／＼奥の方へ——ズン／＼……やつてまわります。

「やーやー栗の木があるぞ／＼……おや／＼栗の實が落ちてる／＼。」

こんどは帽子をとつて、その拾つた栗を帽子の中へ入れる。

「これは好い／＼。」

と健ちゃんは大よろこび、

「おや／＼、向うにもまたあるぞ。」

「おや！ここにも！」

「おや！あちらにも。」

と、云つてゐるうちに、健ちゃんはほんとうに、山の奥へ迷ひ込んでしまいました。そして、今までにちつとも来たことのない、山道ばかりを歩いてゐるのでした。

おや、僕、いつの間にか變なところへ來ちやつたぞ。

氣の付いたときには、もう歸る道がわからない。

「やー困つたな。」

いくら考へてもわからない。

さすが元氣の好い健ちゃんも、少しばかりさびしくなつてまわりました。

「どうしてやらうかしらん!!」

と、暫くちつと立つたまんま、思案にくれて居



りました。

そのうちにお日様は、だん／＼と西のお山に、傾いてゐらつしやいました。

小鳥達が、自分のお家へ歸つて行く姿も見えませんでした。

「あ……困つたな……」

と、健ちゃんは、ます／＼さびしくなつてまゐりました。

自分のお家へは歸りたし、道はわからないし、「もうこりや、今晚はこの山の中で寝るより仕方がない。」

と、諦めて居りますとき、不意にうしろの方から

「健ちゃん！」

と、呼ぶ聲がする

健ちゃん

「誰かしらん？」

と、思つて、ヒョットうしろを振り返つて見ま

すと、そこには、大きな身體をした鼻の高い天狗さんが、ヒョット、立つてゐらつしやるものですから、健ちゃんはびつくりした。

「あや！あなたは天狗さんですか。」

と、大きな聲で訊きますと

「あ、わしはこの山に住んでゐる天狗ぢや、お前はなか／＼元氣の好い感心な子供だから、今日はお前にこの團扇をやらうと思つて來たのぢや。」

と、眞赤な團扇を、健ちゃんにくれました。

「僕にこれをくれるんですか。」

「うん！それをお前にやるが、その團扇はなか／＼面白い團扇ぢやぞ、……バタ／＼……ツと煽ぐと、どんな大きな重いものでも、飛んで上に舞ひ上つてしまふんだ。」

「えッ！面白い團扇ですね、僕、こんな團扇がだい好きなんです。——天狗さん。ありが度う。」

と、健ちゃんはその團扇を頂いて歸らうとした

が、ひとつとどつこい。やつぱり道がわからない。

「うむ！然うだ、天狗さん、僕、家へ歸る道がわからないんですが、教へてくれませんか。」

と、訊ねますと

「よし／＼教へてやらう。」

と、天狗さんは、親切に教へてくれました。

健ちゃん、天狗さんに教へて貰つた通り、だん／＼山道を下つてまゐりますと、——やうやくにして、自分の知つてゐる道までくることが出来ました。

「や！これで好い、ここまで来れば大丈夫だ。」

と、やつとのこととて安心を致しました。そして麓のところまでまゐりましたとき

「おい小僧！お前の持つてゐる、栗や松茸をみー

んなここへ置いて行け！」

と、あら／＼しくどなるものがありますから、

健ちゃんは

「誰だツ？」

と、思つてヒョット振り向いて見ますと、それはまた健ちゃんの知らない、大きな男でした。

「お前さんはいつたいどこの人ですか？」

と、元氣よく訊きますと。

「乃公か乃公はこの山に住んで居る山賊だ。」

「えッ山賊！」

健ちゃんはびつくり致しました。

「山賊なんかにはあげられないよ。」

「何に！出さない、じゃ、こうして取つてやらう。」

と、大きな手で健ちゃんの身體を、グット握り締めやうとしたときでした。健ちゃんは今天狗さんから貰つた團扇を思ひ出しました。

「うむ！然うだこの團扇でやつてやらう。」

と、バタ／＼と、その山賊を扇ぎますと、どうてせう。その山賊はまるで風車のやうに、ク

ル／＼／＼と舞ひながら、上の方へ／＼と飛んで行つてしまひました。

「あや／＼、面白いな……アツハツハツハツハ……」

健ちやんは下から眺めながら腹を抱へて笑ひました。

家へ歸つてお父さんやお母さんに話しますと、お父さんやお母さんも、大變不思議に思つて、その天狗さんから貰つた團扇を、大事に／＼しまつて置くやうにおつしやいました。——健ちやんも大切なからであると思つたのですから、誰にもさはらせないやう、自分のお部屋へ、大事に／＼しまつて置きました。

× × ×

ところが或る年のこと——健ちやんの國と、隣の國とが戦争をぼつぼつはじめました。隣の國は健ちやんの國よりもズ／＼と大きいのですか

ら、兵隊さんも澤山ありました。

健ちやんの國は少しばかりの兵隊さんで、どうすることも出来ませんでした。——王様始め、國中の人々は大變心配してゐらつしやいました。

「戦争をしようか、それともお金を納めて降参しようか。」

と——、之を聞いたのが健ちやんでした。健ちやんは早速王様のところまでまゐりまして

「王様。どうぞ僕を兵隊さんにして下さい。そして隣の國と戦争をして下さい。」

と、申し込みました。王様びつくりなさいまして、

「お前のやうなそんな小さなものが、兵隊になつたところが何のしようもあるまい。また戦争に出るなんかとはもつての外だ。」

と、おつしやいまして、てんで相手にして下さないません。

「王様。大丈夫ですよ。僕には天狗さんから頂いた不思議な團扇があるんですよ。——その團扇さへ持つて行きや、千人や萬人の敵の兵隊ぐらゐは、屁のかつばです。」

と熱心に申しますと、

王様はそれをお聞きになりました

「うむ、そんな不思議な團扇があるなら、いつへん戦争をしてください。」

と、おつしやいました。そして、健ちゃんをすぐ兵隊さんにして、隣りの國へ攻め行くことになりました。

隣りの國では、今日いちばん國中の兵隊を残らず集めて、一度にドットー攻め滅ぼさうと、それ／＼仕度を備へて居りました。

ところが、不意にこちらの方から攻めて行つたものですから、隣りの國ではびつくりして大騒ぎを始めました。

「何！敵は僅だ心配するな。」

と、何萬といふ澤山な兵隊を繰り出して進んでまゐりました。

健ちゃんの方では、

「たとへ敵が何萬来ようと、この團扇さへ持つて居れば大丈夫だ。さあ進め！」

と、元氣よく進んで行きます。

「さあ、敵が見えたぞ、それ！突撃だ！」

と、いふもので隣りの國の兵隊は、一度にドット攻めてまゐりました。

「よしこのときだ！」

と、健ちゃんは眞先に立つて、その團扇でもつて、近寄る敵の兵隊を、バタ／＼／＼／＼／＼と扇ぎ立てますと、どうてせう。クル／＼と舞つてツーツと上に飛びあがつてしまふ。

また近寄る——バタ／＼……クル／＼……

近寄る——バタ／＼……クル／＼……。

来るもの——来るもの——みんな團扇のために  
上の方へ舞ひ上げられてしまふのてした。

健ちゃんは面白くてくたまらない。——そう  
こうしてゐるうちに、隣り國の兵隊は残らず舞ひ  
上げられて、まるで、木の葉が風に吹き飛ばされ  
てゐるやうてした。——そして上から下に落ちた  
ものは、みんな身體が碎けて死んでしまいまし  
た。

健ちゃんは大勝利で勇ましく歸つてまゐりまし  
た。

王様は大變健ちゃんの手柄を褒めて、いろく  
な御褒美を山ぼども下さつたさうです。おしま  
ひ。

附記 この話は内容から言つてもまた時間の方から言つても、

小學校二三年生程度のもと思ひます。けれど幼稚園の  
子供といつても、その話しのしようで充分によろこばし、  
且つ満足され得ることを信じます、去る日私の幼稚園で

園児一同に話し聞かせて見たことでも成功したものです  
から、ちよつと筆にして皆さんの談話の資料に供し度  
いと存じます。



# 園児作品展覽會について

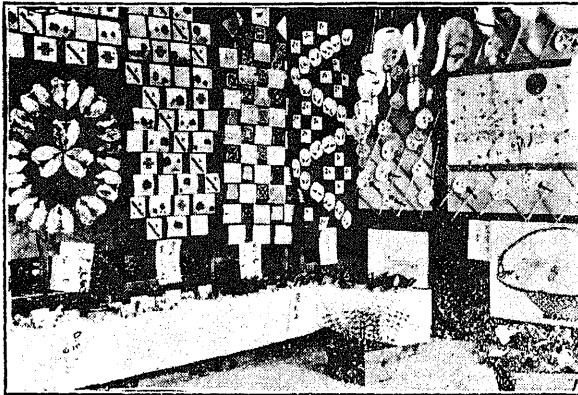
(昭和二年七月二日)

和田都久路

四六

此度堺第一第二幼稚園後援會寄贈にかゝる保育室(第一幼稚園内)新築祝をかね、同時に兩幼稚園児の平素至純なる作品發表の主旨にて此展覽會を開催せり。重なる作品は糸かけ、美麗式、自由畫、豆細工等にして何等保姆の一指をも染めざる純真そのものゝ作品にて且つ各園児自由なる意志の表示の巧なるに觀覽者をして痛く感動せしめたり尙各地幼稚園より多數の見學ありて一層意義あらしめたり。

白、紫、黄、綠、赤、桃色の六保育室



には保姆自ら各室獨得のデコレーションを施し

入興趣を添へたり。左に各保育室に於ける重なる作品を列記す

白組

1 畫用紙全紙四枚大にあじさいの花を摺方にて共同的學式に現す

2 廢物利用の目的を以てピールの栓にて富士山を共同的製作

紫組

1 幼兒に養鶏の實際を知らしむるを目的にて其の發表の資料として粘土、切方、ぬり方を使用せしむ。

2 ボール紙を使用して水上飛行機を製作す

緑組

1 園庭にあんずのなれる有様を觀察せしめ葉のみ實物を用ひ切りぬきたる人形及實をぬり方及はり方應用にて自由になさしむ

2 空紙箱を應用して家を作らしめ幼兒自身の好みに着色配置せしむ

右は塗方剪方及び粘土の練習

黄組

1 敷の觀念を會得せしむる爲廢物利用にて計數器を製作せしむ(ボールの栓を使用)

2 剪方塗方摺方の應用にて牡丹、菖蒲、百合、菊を共作せしむ

赤組

1 遊鳥の有様を知らしむる爲摺方及び實物の葉

を用ひてなさしむ

2 牧場の有様を知らしむる爲にツミ木にて牧家を造り動物を塗り又は切らしめてしたしく味はしむ

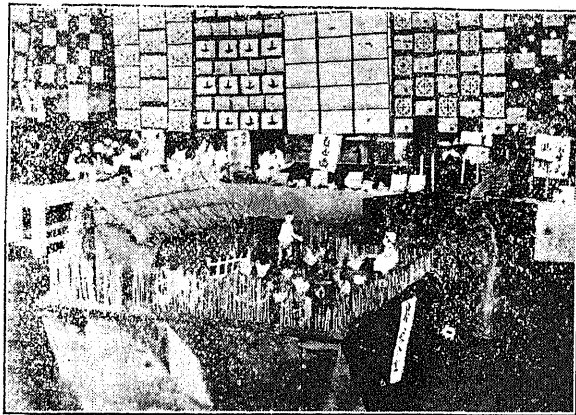
桃色組

1 幼兒の好める遊びを選びてシ、ト、ンを題材とす材料は粘土剪方塗方の練習なり

2 男児のみにて馬車を作らしめ塗方の練習とす

少なくとも年一回此の主旨の展覽會を開催して一般保護者に觀

覽せしむるは幼稚園の事業たるのみならず家庭との連鎖に必然の効果をもたらさん。



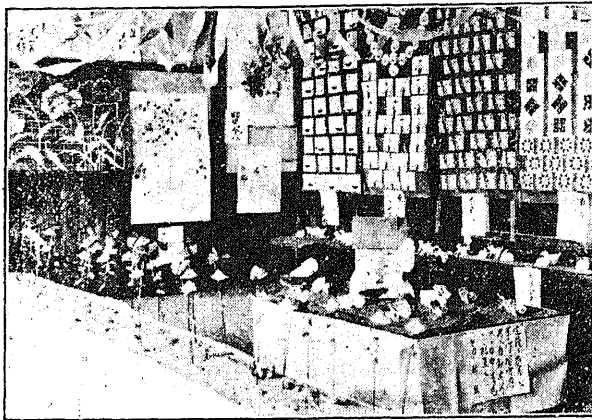
# 粘土でつくつた木のお皿

四八

及川 ふみ

庭のこぼろぎ、ばつたも大方とりつくしてこの頃は天氣さへよければ男兒も女兒もいりまぢつておまゝごと遊びが盛んになりました。

アルミニウムのおまゝごと道具をかつても奇麗なのは一日二日ですぐてこぼこになつたりいびつになつたりだん／＼には數がへつておしまひには何のあとかたもなくなつてしまふ。木製のおまゝごと道具でも特別あつらへの丈夫なもの、外はニウムのと大同小異であるからどこの幼稚園でもそう／＼補つてある



わけてもないから幼兒はあちこちから瓦のかげらや煉瓦のこはれなどをひろひあつめては遊んで居ります。

粘土のお皿もこはれやすいものではあるが容易に幼兒が自ら作つて補つてゆけるし形も割合に美しいので簡單なおまゝごと道具の一部として使ふのには面白いものであります。

先づ粘土を板の上で平くのばして菊の葉（何の葉でもよいのですが）のなるべく大きいものを葉の裏が粘土につく様におく。上から靜かにおさへて菊の



葉の全面が粘土に少しばかりくひ入る様になつたら粘土と葉と一緒にしながら葉の周圍を少しづつもち上げる、これはお皿に物を入れてもころがりおちないためにするのである、これを急に粘土をもちあげると粘土にきり割れが出来るからなるべくしづかにする様に氣をつけねばならぬ。

それから粘土篋で丁寧に菊の葉の輪廓に沿ふて外まわりの粘土をきりおとす、幼児の無器用な手できざ／＼に切りとつた菊の葉のまわりは心ある人が見れば面白いものでせう、今度は葉柄の方をもちあげて靜かに粘土から葉をとりはなします、これで美しい自然の葉脈のきざみこまれた立派なお皿が出来上りました。

この間も私の組の幼児にこころみに作らせましたときには手を拍つてよろこびました、そして次に花壇から自分の好きな葉をもつてきて一生懸命に作り出しました金蓮花、朝顔、ぶどう、ぬかごの葉など色々面白い變つた形の葉をあつめてきていろ／＼變つたお皿が澤山出来ました。

説明は長い様ですが實際はやさしくすぐに出来ます、たゞこれをこしらへる時に、粘土はあまり薄くひきのばしてはいけない、薄くすると板からはなす時に破れてしまふし出来上つて使ふ時にもこわれやすいのですから粘土の厚さを五分位以上にしておく事。木の葉は肉厚なものほどつくりやすい事。葉の周圍のきざみが簡單なものが容易である事。などに注意すればよいのです。なれてくると葡萄や、プラタナス、八つ手などの葉でこしらへるとお菓子皿や灰皿などにもなります。

出来上つた粘土のお皿をよく乾かして焼いてから着色すれば丈夫で美しいのですが手輕には二三日してからエナメルで緑色や黄色や橙黄などに實物に似た色に塗つて數時間もたてばつかへます。

これは幼児がよろこんで作るものですし又一面からは自分たちでこしらへるものですから木の葉などはその季節／＼にふさわしいものが出来て面白いものでせう。

# 南 滿 行 (つゞき)

## 倉 橋 惣 三

### 四、奉天の講習

奉天に於ける保育講習は高等女學校の講堂に開かれた。沿線各地から集まられた講習員諸君の熱

望して已まない。講習會の景況の一端を示すために、講習員諸君の地方分布を、その名簿によつて擧げておこう。

心は、講師として感謝せざるを得ないものがあつた。たとゞ期日四日間、説いて精しさに及び得なかつたのは已むを得ないとして、滿洲といふ地方状況を充分詳かにしない爲に、語つて適切なるものが少なかつたろうかと怖れる。實際、幼稚園はその土地に生れるものである。家庭生活が地方條件に支配せらるゝ如くに、幼稚園は、地方の自然的社會的條件に支配せらるべきものである。學理上からする一般保育原理が、保姆諸君の周到な工夫によつて、土地にふさわしく活かされんことを切

幼稚園名	氏 名
大連北公園幼稚園	石 田 豊
同	鈴木ツル
同	川畑千代子
大連日出町幼稚園	鳥 海 操
同	倉 島 静 江
大連伏見臺幼稚園	泊 田 マツ
同	國 枝 正 惠
同	堀 口 フ ミ
大連沙河口幼稚園	百 地 多 計
同	藤 井 キ エ
大連南沙河口幼稚園	小 山 文 子
同	日 高 ア ヤ



撫順永安臺幼稚園

二宮 エイ

同

今澤 トシ子

同

小川 茂

同

本郷 信子

大連南山麓幼稚園

桐原 末子

同

堺 フサ

同

松浦 仙子

## 五、滿洲の家庭

奉天の講習を機として、沿線主要地で婦人のために家庭教育の講演をすることは、私の依頼せられた第二の任務であつた。私は、内地に於ても、我子を教育しつゝある母親諸君に向つて、我子の教育に就て語ることを最も愉快とするものである。世に、我子の教育に就て専念する母親の心程、眞剣な教育心はない。その尊い教育に對して少しでも役に立つといふことは、實に語るに語り甲斐あることと言はなければならぬ。況んや、海を越えて、國力發展の第一線に家庭を營み、そこ

に我子を護り、我子を育てゝある母親方に向つて語り得ることは、此上もない快事である。安東を第一回として、鐵嶺、長春、撫順、大石橋、營口、大連、奉天の各地に於て、多くの熱心な母親諸君に會つたが、滿洲には滿洲としての特種な問題が、その家庭生活と教育との上にある。私は、それ等の點に就て、説くよりも聽くことの多く、解決するよりも考へさせらるゝことが少くなかつた。國力愈々發展して、母國以外の地に小國民の教養をしなければならぬことの愈々多くなるにつれて、深く考慮して置かなければならぬのは家庭生活とその教育の問題である。

私は歸途、大連からの船中で、滿洲に生れ滿洲に育ちて、初めて母國訪問に海を渡る高等小學生の一隊と同船した。そして、引率者の乞を容れて、その一隊の爲に短いスピーチを試みた時、再び、いろ／＼のことを考へさせられたのであつた。更

に歸來、彼の地の人々から書信を送られて、我が愛兒の教育に關して、極めて切實な質問や相談をうくる時、その度びに又、いろ／＼のことを考えさせられるのである。學校教育の完成は必ずしも難くないとして、家庭の教育問題こそ、どこでも最懇に考ふべきことであらう。

#### 六、冬近し

秋や如何になど、秋滿洲に晴るゝ詩趣を思つてゐる中に、もう直ぐ冬は滿洲を襲ふのであらう。私達は、そこにも多くの美しい滿洲と、内地に見られない光景とを、可なりの好奇心を以て思ふことが出来る。あの廣い鴨綠江や遼河の水が氷つて、その上を車行するのも、如何に雄壯なことであらう。朔風雪を吹いて、滿目蕭條の曠野を、急行車のかねを響かせて北へ貫くのも、如何に壯絶なことであらう。しかし、それは趣味の好奇心である。滿洲の長い冬は子どもを家の内に閉ぢ込めるのである。戸外の楽しい活潑な遊戯を禁斷して

仕舞ふのである。幼稚園の先生の特殊な苦心を強要して來るのである。或る人が言つた。夏に滿洲に來て、草の青い滿洲を見て、それで、滿洲生活の何が分ると。或る保姆さんが私に言つた。先生の自發主義保育法は、夏の滿洲に適要すること必ずしも難くない。たゞ、比較的狭い室に、多數の幼兒を容れて、窓外酷寒の冬に閉される、あの長い冬の日をどうしませうと。私は勿論、充分に答へる處を知らなかつた。人を其の苦心の最中に於て見舞はないものは、眞によく人に役立つことは出来ないとは誠である。實に、それに相違ないものであるが、それでも尙、私としては、近く來るべき冬の滿洲と、その幼稚園の一つ／＼を思ふて、夏に置いて來た小さな種子が園の隅つこに冷く萎んで仕舞ふ様な目にははされないことを、ひたすら念じてゐる譯である。何は兎もあれ、冬近し、滿洲の幼兒達よ。遠くその健在を祈つてやまないのである。

(九月二十七日)

# 兒童生活展覽會の印象記

五四

千 東

思ひ出づるまゝの印象記である。おぼろに残つた印象記である。

卵子色の建物を入るや先づ微笑まれるのはアメリカ人形の華麗なつどひ。でも泌々とブロンドの瞳の心が知りたかつたから樂しみに後に残す事にして右側から順を追ふて見てゆく。イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ諸國の玩具及び繪雜誌やアルファベットや數の觀念を容易ならしむる教育的な玩具等で、それらのすべてに國民性が露れてゐて乏しい頭にもうなづかれる事が多かつた。就中ドイツ製品はどうしてあんなに堅實なんだらう。製本の紙質の良いこと、印刷の鮮明なこと、色彩の快いこと等々。倉橋先生も仰つた「ドイツ製品

には鈍感な所があつてよい。イギリス、アメリカもののあまりに神經質なのと比較して」と。

イギリス、アメリカものは實に新知識の粹を極めそれで又デリカシーなものが多かつた。けれども、幼兒は天才やキリン兒ばかりではなからうに。殊にアメリカもの、赤と緑の色彩がフと見た瞬間にあまり快くなかつた。幼兒は赤だの緑だのを好むものじやないかと歸るさも電車の中で省みても見たが何故かあの時はいやだつた。海の向ふのあの新しい國と云ふ潛入意識ばかりでなく：。フランスの繪本の中に歴史的なもの多かつたこと。ジョッフル元師の繪もあつた。ルイ十六世、ヘンリー四世、其他系統だつた歴史的讀物。私はそ

れを見た時フランスの子供を非常に幸福に想へた。母の膝で幼児はどんなに胸おどろかして美しい唇からもれる言葉に耳を傾ける事だらう。自分の搖籃の頃なつかしがつて聞いた昔語の數々が今も尙どんな風に動いてゐるかを考へて。

さればこそジャンダークも生れたであらう。或はナポレオン或はユーゴ將又ロダンも。嬉しかつた事は外國製品と對照よく配置された古來日本各地方の特産玩具である。大きく畫かれた全國地圖の間にそれ／＼地方色を持つた玩具が分布してあかれてあつた。そのいづれもが鈍の鈍なることその極致ではあるが小供の世界の中のもの。その多くが泥繪具で塗り立てた様なものであつたがいやみがない。なつかしきがある。斷髪ではない、稚兒鬚姿である。國粹論者ではないが日本古來のものには云はれぬ味がある。あの玩具の中で育つたから旭に匂ふ山櫻の精神も培れたであらう。さ

つき通りすがりに仰いだ大西郷の巨軀がゆくりなくも思ひ出された。が嫌喜びをしてはならぬ。次に展開されたのが昭和新時代の幼稚園の種々相である。

幼稚園の日常に於て幼児があふるゝ感情に發表の意のまゝにならぬをもどかりつゝ先生やお友達に話したであらうそのまゝを繪の説明がついて一帳に集めてあつた。見る人をして本當に快くさせる。狸だの狐だのつて言葉の多かつたこと。幼い頭に不可思議な想像をのばす言葉はこれ等であらう。どれも思はず可愛いと叫びたくなる。

「兎が山カラツリポリシテキタノ。ネズミガ來テ原ツバヘキツタノ。タベラレルトイケナイカラオ舟ニノツテイソイデカヘツチャツタノ。

これを聞いた子供の質問と應答。山ノドコカラツツテキタノ。オ家カラヨイソイデ誰ガカヘツチャツタノ。ウサギヨ。

其他幼兒の製作品と云つた様なのが數限りなく並べられてあつたが時代の先驅者を培ふべきに、あまりに細かひ神經質的な小手先きの仕事が多かつた事が悲しまれる。これが昭和二年の幼稚園の出品だらうか。

小手先きの器用が何程の價值があらう。その價值を無視するのではないけれどもより大切な事は、内に養はれ培はれてゆく實力ではなからうか。廿世紀は人を生まねばならぬ。小手先きが器用になつたのみでこれこれの物が上手に出來ますと意氣込むのは誤算である。私は器用な幼兒を多く見る。けれどもこれを人として客觀する時多くの失望を感じる。考へて欲しい。本當に考へて欲しい。人を造り出す保育であると云ふことを。中等教育になつて覺えるピタゴラスの定理や  $E=mc^2$  や  $E=hf$  等は直接實生活に役立つことは少ないが、それによつて養れる頭の正確な緻密さを重大視する

のではなからうか。かう云ふ見知から何々幼稚園出品の小細工が昭和時代に適合するとは……。

皮肉にも相對立して番町幼稚園の出品物がある。小供の家。極くさゝやかな一間四方位のもの。それが果實屋と菓子屋に分たれてお客ごつこお店ごつこに用ひられる様になつてゐる。説明に曰く。

「幼兒を連れて四つ谷公設市場に買ひ出しにゆく。果實の實物を觀察し又多くを買ひ出して歸園後果實の寫生をしその輪割を切り抜き果實屋の店頭に並らべる」と。

いびつなリンゴもあつた。粒だらけの梨もあつた。了解に苦しむバナナの房もあつたが、生命に躍つてゐる。眞の小供の力の躍動に輝いてゐる。四つ谷市場に買ひ出しに行つたそれだけでもどんなに嬉しく印象に残つた事だらう。又觀察したものを、力の限り形に表現してその出來上つたもの



て小供達自身のお店ごっこ、勿論大きな力を投げ  
出さねば出来ない事である。それだけに喜びも期  
待も多く、それによつて培れる力それによつて得  
た眞實の智識も僅少ではあるまい。番町幼稚園か  
ら幼児のメンタルテストと、體格との統計が出て  
ゐたが惜しいかな時間に追はれてそのまゝ。

理想的な保育室の模型が人形をあしらつて示し  
てあつた。粘土が惜げもなく用はれて實物大の粘  
土工作がしてあるあたりは嬉しいが、いつそあの  
粘土工作も膚なめらかに完成されたものより粗雑  
な未完成品をおかれたならば……とも思つた。然  
し繪の手本にも實物が表示してあつたりしてさす  
がは好む。

次は聖路加病院出品の保育室。理想的に出來て  
ゐる世の母様達の御覽をお進めしたい。殊に柳行  
李がそのまゝ利用されて一つは赤ん坊の衣服入れ  
一つは大タオルで蔽つてベットになつてゐた點等

を、壁に懸けられた額がサンタマリアであつたこ  
とも聖路加出品と知つてうべなるかな。

其の裏側にこれは又痛ましい出品物。帝大セツ  
ルメント其他の託兒所の出品物で説明書が素ッ直  
な言葉で書かれてあつた事も一入胸刺される想ひ  
であつた。貧民窟の恵まれぬ子供が一錢二錢の小  
遣いで以て可憐な遊戯慾を満足させてゐるがそれ  
は何の考慮も加へられない商賣人の打算から賣出  
される一錢二錢の品である。活動寫眞の惡影響は  
刺戟的な時代相の影響をうけて、ピストル、十手  
活動俳優の似顔の面、ブリキの玩具、有毒な色彩  
をほどこしたものを、ほこりにまみれた又腐敗した  
駄菓子等一錢ものを網羅して竝べてあつた。貧し  
いとて子供の活動力慾望に何の變りがあらう。父  
親の腹掛の井からつまみ出してやつと貰つた一錢  
二錢、その彼等の全財産を投げ出して惜しいと思  
はず買ひ求めるそれらの品が非衛生的な非教育

的なもので、唯下等な慾を刺戟するに過ぎないもののみである。それに遊ぶ方法や又その貧民窟あたりの大人の模倣と活動寫眞によつて得た智識とである。この品で遊び、この方法で遊びまわる小供らの品性を思ふ時悲痛な救済を叫び度いと説明されてあつた。想うに／＼その中にも豊かな才を持つたものもあらう。天稟の技を持つものも居やう、それが双葉から蝕まれてゆくいじらしさ。私は社會制度の何ものかを深く知らないがこれ等の子供の數も少くはなからう。かうして育ちゆく子供の將來を想ひやる時暗然とする。私達が無爲な平凡な一日を送りつゝある時同じはらからはかくまで悲惨な危険な遊びと樂しさを求めてゐる。矯風會あたりで説く禁酒運動も此等から救済してかゝらねば效果も薄いのではなからうか。

次に等閑に附され易い幼年雜誌が善惡對照して示されてあつて大いに參考になつた。子供の國は

クレーンの觀がある。繪と云ひ内容と云ひ印刷と云ひ。目を刺戟する現在繪本の多いこと、赤い所に黒で小さい文字を印刷したもの、内容の下等なもの、慘忍性を帯びたもの、普斷あまり氣をつけないが、かうして見るとその數がぢびたゞしいこと、家庭であたへる繪本が恐しい様である。子供の知識の入門が繪本である限り當事者がつと洗練された藝術觀と、深い子供への理解と、鋭い教育觀を持つてやつて頂かねばと潛上ながら思ふ。

外國雜誌に向つて恥しい譯、今まで見た外國雜誌に赤に黒文字を入れた惡趣味はなかつた様、營利を主とする小さい雜誌社にレンファインされたとか深い理解力とかを望むのが至難なら選擇者に高い鑑識眼が必要であらう。殊に母たる人に。

澄の宮様の御玩具も拜觀した。詩の宮様の御潑刺さもこのシーソーからかこのち猿からか。

倉橋先生、高嶋平三郎先生、小波先生、關先生

等の御出品物もあつた様に記憶して泌々拜見したかつたが、半分と見廻らぬうちに、大好きな大好きな古代雛、山本農相夫人出品で高倉雛や享保雛の高雅な顔に御所とか、大奥とか、菊合せ、香合せ等をおぼろにし喜んでゐる時、袴の紐のゆるみかけたお腹に痛ましくもドンがひびいた。残つたのは、今度にゆづつてせかるしまゝにミス・アメリカの前に三分間。

赤い頬つぺたね。クリ／＼した目だこと、照の宮様から下すつたお家、ラジオもある、お相手の友禪縮緬に漆黒の髪日本人形も亦いいこと。第二日に

出品物の前毎に熟視し黙思してゐては足の方が疲労して来る。故に中央線位の速さで見廻す事にする。小波先生出品物は有名な馬の蒐集物が多く、隣り須川邦彦氏は象を集め面白い對照。倉橋先生の澤山の繪本の中に殊にスウイスドイツのものを

多く見受けた。その一つ一つを先生から伺へばそれらに對する深い見識と興味と新知識を得られるのであらうが凡庸の悲しさ一つ一つについて書くすべを知らない。文部省では一才より三才まで四才より六才まで七才より十才まで十才以後と年齢を大別して、其時代に適する玩具を並べ一般の參考に供してゐる。例へば一才より三才までは感覺を樂しますもの、耳と眼より來る玩具が入門でガラ／＼風車、犬張子、七才——十才この時代は、工夫したもの、科學應用のもの、勝負するもの、運動的なものを好む故にと説明がついてゼンマイ仕かけの電車汽車何々ゲーム。野球用具等が並べてある。生活改善同盟會の子供のおやつやお辨當のサンプルの前には、唾涎一糶の人々で人足が絶えない。ともあれ、婦人の目を通すべき處である。幼稚園でも小學校でも一番楽しいのはお辨當の時なる故に。大好きな御辨當の時朝出かける足音ま

て違つたのはそのかみの私ばかりではあるまい。グリーンピースの入れ方一つで目新しくもなつたり、海苔一枚で私等が日常食べ馴れたものの面目が一新してゐる。聰明な母様は此等から得たヒントでこれに倍する御料理の數を殖される事だらう。

この種の展覽會には附きもののクラブ齒みがきの宣傳かたぐいの臘人形を用ひて齒の衛生を細かに示したもののやら、同じくクラブの肝油はウィタミンのAに富むとかキャベツはA・C含むとか云つた榮養表もあつた。赤ちやんの衣服、改良服、改良靴、新式釦、新式何、理想的何、これらを研究し又如實にお子様方の衣服に頭を悩ましてゐられる方には參考にもならうし意外の收穫もあらう、悲しいかな長袖に袴で甘んじてる身には改良何々の眞價が判らなかつた。家庭教育品の看板の下に、保育椅子、改良ブランコ、〇〇黑板等があか

れてある。保育椅子名の如く生後一二年の頃人手の少ない家庭に用ひて良いもの車にもなれば椅子にもなつて感じの良いラック塗りの様に記憶してゐる。その中に入れてガラガラでも持たしてあげばお洗濯位は心配なしに出來さう。ブランコも面白い。〇〇黑板とは上に繪が書いてあり横手のハンドルを廻せば繪は轉換して新しくなる。その繪を見つゝ下の黑板に書く様になつてゐる。「ハンドルを廻す面白さがともなつて、畫くのを樂しみ知らず／＼動物や其他のものの輪劃を覺える」とは説明書のまゝ。さうかしらあのハンドルは十回とは廻らないだらう、活動性の幼兒がそれで満足するかしら、御手本となるべき繪は實際輪劃正しくはあるが、色彩もなければうけ取る強い美的感覺もない、それで喜んで書くかしら、それよりもコドモノクニでもお手本にして不思議の汽車や赤衣着物のお母様を畫く事を喜ぶのじやないかし

ら。東京玩具組合から種々な玩具が出品されてゐる。パネ仕掛の器械的なものが殊に多い。それらは外國製品と大差はない、喜んでよいのか悲しんでよいのか。これは又大平木工玩具會社の出品とかで木工玩具が一大隊整列。歎きのピエロもある。ファンシーカスタムをつけた喜びの斷髪もある、小首かしげる小鳥もゐる。木工玩具は堅實で良い。表現も面白い。聞けば日本人は器用で殊に木工細工は秀逸で年々輸出も少くないとか。テーブ手工も陳列してある。テーブはクレオン畫のそ

れよりも大膽な大まかな表現が出来る。ある幼い人達がテーブを瓜で切りながらベタ／＼はつてゐつたら二科賞に價する様なのが出來さうな氣がした。「生命の亂舞」とも題して有名な人にサインして貰つたら二科展に於て忽ち赤札がつくだらうに。エッチイコールマン氏出品にこんなのがあつた。Body + Cigarettes II の繪に添へて、「ある日煙

草が云つたことに『私は大した數學者ではないが煙草を呑む人が體力を減じ、精神を衰弱させ、神經系にある障害を來す位の方程式は書ける』と。煙草の害恐るべしと書かれたよりも愛煙家の胸にビリリと來てひそかに苦虫を潰した事だらう。

次に文部省指定の何才は身長何厘、體重何疋と身長と體重表が年齢に併せてかゝげてあつて、前に計量器とメートル尺とがゑかれ自由にそれを用ひて平均數と比較出来る様になつてゐた事は實に喜ばしい極み。

後藤新平男の寫眞のある處には、少年團同盟のテント生活の朝が模型にして出てゐる。柴扉曉に  
出て高原の朝は將にこれから。前流を汲むもの三々。薪を拾ふもの五々。實に美しい限りの生活である。次が新古兒童生活年中行事。

一月、四方拜。春休み。春の大相撲。消防出初式、數入り、惠方詣。

二月、紀元節。節分。初午。氷滑り。摘菜。梅

見。天神祭。

三月、地久節。春季皇靈祭。雛祭り(曲水の宴

鶏合せ)。陸軍記念日。桃の花開く。遠足。

卒業式。

四月、神武天皇祭。天長節。灌佛會。靖國神社。

始業式。花見。潮干狩。京都壬生祭。

五月、端午。京都賀茂祭り。海軍記念日。大相

撲。金魚賣り來る。盆栽遊び

六月、時の記念日、山王祭。螢狩り。鶉飼ひ舟。

虫賣來る。入梅。

七月、七夕祭。暑中休み。兩國の川開き。盆踊

り。藪入り。

八月、お月見。博多八朔のお祝。海水浴。登山。

林間學校。天幕生活。

九月、關東大震災。重陽節旬。乃木祭。秋季皇

靈祭。美術展始る。芝明神祭。伊勢の大

祭。菊見。

十月、神嘗祭。達磨忌。池上本門寺會式。爐開

き。夷講。運動會。觀艦式。茸狩り。靖

國神社。

十一月、明治節。新嘗祭。酉の市。七五三。

十二月、四十七士打入り、年賀郵便始る。クリ

スマス。煤拂ひ。餅つきの雪遊び。

かう書くと如何にも文字の器械的配列の様であるが、古來年中行事に用ひたものやら、人形やらがならべられて情趣たつぷり。殊に大江戸をしのぶよすがに好い。廣重の繪も想すれば、大相撲の春場所も想はせる。けだし年中行事は單簡になりやすい幼稚園の日常を救ふ唯一のもの。夏休み近く猛烈な太陽の光の中で弛緩した五體がさて明日をと考へる時七夕の聲をきいてホッとする様に。我お茶の水は自由遊びの出品。杵登りには多くの子供が群れてゐた。急に大山を見た様で嬉しかつ

たこと。

膳先生の數々の自然物利用の玩具。梧桐の葉一枚で、土にもなれば杓子にもなる、蟬にもなれば草履にもなつてその利用は工夫仕題。ピクニツクの折の一草。庭の一葉てふとした拍子に思ひもかけぬものが出来やう。思へばフレーベルの手に自然物は入つてゐるが自然物つなぎのみ。膳先生によつてそれが擴大された譯か。

帝國女子専門學校の出品に各地方の遊戯と玩具が調査して表にしてあつたが省略する。唯さすがに東京は遊戯が多い。殊に劔撃ごつこ、學校遊び、編物、射的、シャボン玉、幻燈等は他地方にあまゝり見受なかつた遊びである。帝大醫學部のに眼の衛生やら、身の姿勢やらを圖解したのがあつた。驚かされたのは眼の中から取り出されたガラスの破片。草の種、木片等でそれがあまりに大きかつたから見てゐる内に自分の眼の底からもそんなのが浮び出る様な氣がして心配だ。中に眼の内熱と涙に養はれて目の中に入つた種が芽ぐんで

ゐるのがある。「目の中の種から芽が出て」といふのはお伽噺の發端ばかりぢやなかつたのか……。最後の前日見落した番町幼稚園の一般素質検査の統計をかゝげておく。

地方の愛する姉様方の爲に。

これは三木知一郎氏の一般素質検査票を用ひられ一組を二十人とし互に見合ふとか、話し合ふとか出来ない机の、配置にして同時に一齊に行はれタイムにはストップウォッチを用ひられた、検査を二日間に分けて第一日と第二日に中三日おいたが、學校ごつこの様にしたので、子供は非常な喜びと熱とてこれを容易にやり、第二日目を待ちこがれたと記されてあつた事を附言しておく。

結果五才の時には男子は女子を凌駕してゐるのに六才になつて急に女子の方が男子を凌いでゐる。この時代がそんなに急劇な變化をあたへるものとは思はれないからもつと多數について調査する必要があるとしてあつた様に記憶する。

先月八日から三十日迄上野に開かれた兒童生活展覽會の會期中左の催しがありました。

八 日(土)招待日

午後 人形病院  
 フィルム 子供の育て方、壺  
 幼稚園 東京昭和保姆養成所  
 實演

映畫デー

九 日(日)

幼稚園デー

午前 フィルム 子供の育て方、壺  
 幼稚園實演 本郷區第一幼稚園  
 阿部季雄氏  
 午後 フィルム 淋しき燈臺守、子供の育て方、壺  
 幼稚園實演 早蕨幼稚園  
 久留島武彦氏

一二日(水)母の日

午後 講演 醫學博士 石橋長英氏  
 文部省囑託 鹿島なほ子氏  
 幼稚園實演 東京府女子師範學校附屬幼稚園  
 東京女子高等師範學校教授

一五日(土)幼稚園デー

午後 講話 同校附屬幼稚園主事 堀七藏氏  
 幼稚園實演 東京女子高等師範學校教授

一六日(日)口腔衛生デー  
 幼稚園デー

午後 講演と映寫 クラブ口腔衛生部長 川上爲次郎氏  
 幼稚園實演 東京市囑託 瑞穂幼稚園



一七日(月)お嘶デー

午前 お嘶 阿部季雄氏  
童謡、舞踊 花柳徳之輔氏社中  
午後一時、音楽 少年團健兒音楽隊  
午後 お嘶 久留島武彦氏  
童謡、舞踊 花柳徳之輔氏社中

一九日(水)「レコード」デー

午前 レコード及實演 東京蓄音機商組合  
午後 レコード及實演 同  
午後一時 幼稚園實演、早蕨幼稚園

二二日(土)母の日

午後 講演 聖路加病院小兒科 定かめ代氏  
日本女子大學校教授井上秀子氏  
午後三時半 ハーモニカ吹奏、日本樂器株式會社

二三日(日)映畫デー

午前 フィルム 文部省製作映畫等  
午後 フィルム 同

二九日(土)お嘶デー

午前 お嘶 内山憲堂氏  
童謡、舞踊 若柳吉三耶氏社中  
午後 お嘶 久留島武彦氏  
童謡、舞踊 若柳吉三耶氏社中

三〇日(日)幼稚園デー

午後 童謡、舞踊 林 きむ子氏外數名

◎時間

午前ノ部

午前十時半ヨリ零時半マデ

午後ノ部

午後二時ヨリ四時マデ

# 木の葉

土川五郎振

一、散るよ：：左へ三步左上ヲ見テ掌ヲ上ニシテ

兩手ヲ左上ニアグ

散るよ：：兩掌ヲ返シテ下ニシテ右下へ波狀

ヲ描キテ流ス 目は手先キニ從フ

木の葉が：：右へ三步右上ヲ見テ掌ヲ上ニシ

テ兩手ヲ右上ニアグ

散るよ：：：兩掌ヲ返シテ左下ニ波狀ヲ描

キツツ左下方ニ流ス

風も：：右向キヲナシ上體ヲ前ニ屈シ左足ヲ

右ニ廻ハシ兩手ヲ側方ヨリ前方へ出て「も」

にて右足床ヲ打シ

吹かぬに：：右廻リ右足ヲ前ニ兩肱ヲ曲ゲ内

ヨリ側方ヲ通シテ前方ニ輪ヲ描ク「に」にて

左足床ヲ打ツ

木の葉が：：又右廻リ左足ヲ出シ前ト同ジク兩

手ヲ廻ハシ右足ニテ床ヲ打ツ

散るよ：：更ニ右廻リ正面ニ向ク兩手ヲ廻ハス

コト前ニ同ジ

ちらちら：：兩翼ヲ左右ニ開キ左上ニ顔ヲ向ケ

上體ヲ右ニ傾ケ柔カニ輕ク兩手ヲ上下シツツ

右方ヘツマ先ニテ三步

ちらちら：：同ジク右上ヲ見テ上體ヲ左へ傾ケ

テ左へ三步

ちら：：左足ヲ右足ノ右へ一回轉シテ兩手ヲ

アゲ全身ヲ上ニ伸バス

ちら：：左足ヲ引キ兩手ヲ左右ニ開キ蹲踞ス

二、飛ぶよ……直立シテ右向キヲナシ兩手ヲ上ヨ

リ左下ニ流シツツ四歩小足ニテ前進ス

飛ぶよ……更ニ兩手ヲ上ヨリ右下ヘ流シツツ四

歩前進ス

落葉が……廻レ右ヲナシ兩手ヲ上ヨリ左下ヘ流

シツ、四歩前進ス

とぶよ……更ニ四歩兩手ヲ上ヨリ右下ニ流ス

風に……左手ヲ頭上ニ右手ヲ體前下胸部ニ掌ヲ

上ニシ右足ヲアゲテ左足ニテ跳ブ以下四回ニ

テ右回轉ス「に」ノ時掌ヲ内方ニ返ス

吹かれて……右手ヲ頭上ニ左手ヲ體前ニ左足ヲ

アゲ右足ニテ跳ブ

落葉が……「風に」ト同ジ

飛ぶよ……「吹かれて」ト同ジ

ひら……左足左ヘ兩手ヲ左上ニアグ顔ハ左上ニ

向ク

ひら……右足ヲ左足ノ前ニ兩手ヲ右下ニ流ス顔

ハ右下ニ向ク

ひらひら……同ジコトヲ繰返ス

ひいら……「ひらひら」ヲ繰返シツ、右方ニ行ク

ひら……更ニ右方ヘ一步同ジク繰返シ顔ヲ右上

ニ次ニ左下ヘ更ニ最後ニ兩手ハ左下方ニ流シ

タルマ、左足ハ右足ノ前ニシタルマ、右上ヲ

向ク。

張るからに秋明るき障子かな

左右亭

塔見ゆる山の端まで刈田かな

虚子

# 木の葉

梁田貞曲



1. チルヨ チルヨ コノハガ チルヨ  
2. とぶよ とぶよ おらばが とぶよ



カゼモフカスニコノハガ チルヨ  
かぜにふかれておらばが とぶよ



チラチラ チラチラ チイラチ  
ひらひら ひらひら ひいらひら

## 木の葉

(新作唱歌第二編より)

一、散るよ散るよ

木の葉が散るよ

風も吹かぬに

木の葉が散るよ

ちらちら

ちらちら

二、飛ぶよ飛ぶよ

落葉が飛ぶよ

風に吹かれて

落葉が飛ぶよ

ひらひら

ひらひら

# 雜 錄

## 宮崎縣保育會第二回總會

宮崎縣保育會は第二回總會並に表彰式を去る八月十七日午前十時宮崎市第一小學校講堂に於て開催。來賓に松平學務部長村田縣視學大迫市長小學校長市會議員多數參列す。開會の辭に次ぎ國歌合唱勅語奉讀後川野副會長の會務報告あり。それより表彰式に移り明治二十六年已來三拾有五年間宮崎幼稚園に勤續せる榎並たけ子女史へ表彰狀並に紀念品を贈呈し縣知事代理松平學務部長始め仲田市會議員の祝辭と女史の感激に滿ちたる答辭ありて閉會式を告げ終りて大迫市長の講演續いて日向幼稚園河野初一氏は幼兒教育の實際に就て研究發表を試み正午休憩午後兒童愛護デー及全國聯合保育會加入の件其三四項協議をなし最後に茶話會を

開きて散會す。

## 熊本市保育會發會式

熊本市に於ては去る十月六日午後二時碩臺幼稚園に於て保育會發會式を舉行す。谷田澤學務課長濱岡市視學續市立高等女學校校長其他各小學校長市會議員參列始に法碩臺幼稚園長主催者を代表して開式の辭を述べ國歌合唱後桑原手取幼稚園長左記の會則を發表役員に左の諸氏を推舉す。會長の挨拶來賓諸氏の祝詞幼稚園側を代表して佐藤八郎氏會員代表松本キヨ子氏各祝辭を述べ會長の閉式の辭ありて茶話會に移り和氣鬢々の裡に散會す

### 會 則

第一條 本會ハ熊本市保育會ト稱シ事務所ハ當分幼稚園内ニ置ク

第二條 本會ハ熊本市内公私立幼稚園職員及ヒ其關係者ヲ以テ組織ス

第三條 本會ハ保育事業ノ普及發達ヲ圖リ幼兒保

育ノ進展ヲ期スルヲ目的トス

第四條 本會ノ事業ハ概要左ノ如シ

1 保育ニ關スル研究調査

2 保育ニ關スル講演會講習會及視察

3 全國保育會竝ニ他ノ保育會トノ聯絡

4 其他保育事業ノ助長進展ニ關スル事項

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長一名 副會長一名 幹事若干名

評議員若干名

第六條 會長副會長ハ評議員會ニ於テ會員中ヨリ

之ヲ選舉シ評議員ハ各幼稚園ニ於テ會員中ヨリ

一名宛之ヲ選出シ其任期ハ各三箇年トス

但補缺當選者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

幹事ハ會長之ヲ依囑ス

第七條 本會役員ノ任務ヲ定ムルコト左ノ如シ

會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理シ會議ノ議長

トナル

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其

代理ヲナス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會計其他會務ヲ處理

ス

評議員ハ會員ヲ代表シ會ノ重要事項ヲ協議ス

第八條 本會ハ評議員會ノ決議ニヨリ顧問ヲ推戴

スル事アルヘシ

第九條 本會ノ會合左ノ如シ

總會ハ毎年春秋二回之ヲ開催ス

但會長ハ必要ニ應シ臨時總會ヲ開催スル事ヲ

得

評議員會及ヒ第四條ニ關スル諸會合ハ會長ニ

於テ必要ト認メタル時臨時之ヲ開催ス

第十條 本會々員ハ會費トシテ毎月金拾五錢ヲ釀

出スルモノトス

第十一條 本會ノ規則ハ總會ノ決議ヲ經ルニアラ

サレバ之ヲ變更スルコトヲ得ス

右

役員

會長 谷田澤市學務課長 副會長 濱岡市視學

評議員 法政雄。佐藤八郎。高宗強。鈴木一人。

新田周藏。松本きよ。星子さく。高島くに。

幹事 桑原辰喜。手島こと。税所じゆの。小川

婦志。上田興世。

### 福島縣保育大會

十月八日午前十時から縣下の保育大會を若松市公會堂に於て開いた出席六十餘名定刻渡部辨了氏開會の挨拶をなし座長に河井臥龍氏を推して會務の報告に入り須賀川幼稚園長杉原治助氏の詳細に亘る諸般の報告があり功勞者の表彰に入り左の諸氏表彰された。

#### 功勞者の氏名

一、退職者

勤續年數	氏名	國名
三十年	高木トリ	(若松)
十八年八月	安藤フク	(二本松)
十二年	宗ミツ	(郡山)
九年五月	石丸常次郎	(須賀川)
二、在職者		
廿七年五月	須子トミ	(福島)
二十年	松山政治	(郡山)
十五年	松山イネ	(郡山)
十一年九月	河井臥龍	(會津)
十一年七月	伊東秀	(同)
十一年	杉原治助	(須賀川)
同	眞石喜助	(同)
十年一月	澁木コノ	(福島)
九年四月	玉川喜代子	(若松)
八年二月	入間田ヨシノ	(同)
七年一月	三木梅子	(白河)
七年	大森吉彌	(郡山)
七年	長谷川眞佐	(會津)
六年六月	麻生シゲノ	(若松)
五年一月	曾我鏡之助	(白河)
同	石井宗順	(同)
同	寺西大觀	(同)

右の如く表彰終つて來賓の祝辭に入り穴澤市長  
林市會議長、渡部學務課長その他和田實氏の演説  
あり須子トミ女史の謝辭に終つて議事に入り

### 會議案

#### 一、建議題

(一)米國より我國に寄贈せられたる人形を各幼

稚園に配布せられる様その筋に建議する事

(郡山提出)

(二)幼稚園令實施に就き保姆養成機關を設置せ

られんことを其筋に建議すること

(若松研究提出)

#### 二、協議題

(一)會員現職中死亡の方に香典及び吊詞を贈り

ては如何

(梁川提出)

(二)縣教育會又は部會に加入し居らざる方は進

んで加入せられては如何 (須賀川提出)

(三)縣教育會會員名簿を作製すべきこと若し可  
なりとすれば其の時期を定むること(右同)  
を議して満場可決かくて會員の研究發表に移り

#### 三、研究發表

(一)觀察に關する第三學期分の細目に就て

(郡山、松山政治氏)

(二)手技の一方面に就て(會津、伊東秀子氏)

(三)子供の國の入口 (若松、玉川喜代子氏)

(四)當研究會に於て選定せる保育細目に就て

(若松、長谷川眞佐子氏)

以上の如く研究發表に就ては非常なる參考を各  
自に提供して讚嘆を受け豫定の如く終了する筈だ  
つたが時間の關係上明日午前に延長し兎に角八日  
午前中の行程はこれで終了を遂げた渡部辨了氏の  
閉會の挨拶があつて晝食に入つた。

かくて午後正一時より若松各幼稚園の遊戯を觀  
ることゝなつたが定刻となるや各幼稚園に付き添



ふて父兄母姉も集まりさしもの会場も立錐の餘地なきに到つた、遊戯は

### 三園合同

#### 一、日本男兒

月の中兎さん

#### 二、赤トンボ

木の葉

#### 三、大きなお日様

月夜兎

#### 四、秋の田

兎

#### 五、ながれ星

いもむし

といふ順序であつて人々環視の中に「ツッキーの中、ウサギさん」やその他を歌ふ踊るのありさまに大喜びのお客さん方は父兄母姉と共に約一時間熱心に觀た

講演會には

和田、膳兩氏講演

午後二時から東京目白幼稚園長和田實氏並びに元大阪江戸堀幼稚園長膳真規先生の觀察並びに自然物利用の手技に就き約一時間の講演に入つたが非常に有益なものであつて一般に多大の感銘を與へた

### 思ひくに

### 市内幼稚園視察

漸く会場から解放された會員の人々はそれより市内各幼稚園の實地視察をなすこととなり各幼稚園の保母に導かれながら幼児の仕事其他設備萬端に就き仔細にみるところあつた。翌日の豫定は講習と研究題だけで午前九時から市公會堂に於て開かれた。



# 定規文注

# 告 稟

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
  - 一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。
  - 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新聞書、交換雜誌、入會手續、更に
  - 一、本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。
- 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内**
- ## 日本幼稚園協會
- 一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。
  - 一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
  - 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
  - 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
  - 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
  - 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

## 價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年分拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和二年十一月十日印刷  
昭和二年十一月十五日發行

幼兒の教育 第二十七卷第十號

不 許 複 製  
禁 轉 載

編輯兼 堀 七 藏  
發行者 堀 七 藏

東京市牛込區西五軒町五二番地

印刷者 小長谷 勝之助

東京市牛込區西五軒町五二番地

印刷所 行政學會印刷所

## 發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
**日本幼稚園協會**  
振替口座東京一七二六六番

## 廣 告

特等面一頁 金參拾圓	二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓	一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田與松に御申込下さい

# 低學年のやさしいお話と遊戯の取扱ひ

巖谷小波氏序  
島崎藤村氏序  
長尾

豊著

尋一編 二冊 各三〇〇頁  
尋二編 二冊 各三〇〇頁  
函入美

定價各貳圓  
送料書留十八錢

島崎藤村氏序より

偶然に發見せられたる珠玉の尊き  
好い童話を讀むには何等準備をも  
要しない。

舊智、長尾君は幼いものゝ愛から  
出發して、東西の好い寓話童話を  
比較し、兒童の教育に心を潜める  
ものゝために、この好い著述をつ  
くられた。思ふに、君のやうな篤  
學な士にして初めてこれは成し得  
る仕事である。月頃童話に興味を  
持ち自分でも二三の童話集を作り  
試みたことのある私などは、君の  
新著から啓發せらるゝことも多か  
らうと信じる。

雪のやうに純真な魂の持主である低學年兒童を教へ導くものとして  
教材には只單に知識を興へると云ふ事以外に美しい情操や隠れた叙  
智の芽を素直に培つてゆかねばならぬ高貴な使命がある。著者長尾  
氏が夙にその兒童文學の踏踏して實際的な本質を遠ざかりつゝあるに鑑  
み、低學年教材を尋ねて本來の意義を闡明し、それよりして歌とお話の  
起源など沿革に索ねて本來的見地とを結撰した唯一書として全國小學校低  
學年教育關係者並びに保護者父兄の必讀を乞ふ。

新刊 短い對話と小さい劇 長尾豊著・たぐさんの實例  
と上演法價一・六〇 送一八

新刊 兒童自由詩の鑑賞 百田宗治著・兒童自由詩の鑑賞  
本質と學年別兒童作品の鑑賞 價二圓五十錢 送一六

再版 實物提示 幼兒に聽かせる話 久連松弘著・小歌曲を附し  
により 價二圓五十錢 送一六

六版 國語讀本を  
戲曲化する 兒童劇脚本 東京高師宮川菊芳 三浦成  
作共著 價三・〇〇 送一八

厚生閣書店

東京市麹町區六番四八番  
東京市東區九番〇〇番

出版目錄

實用新案出願中

「わくのぼり」

定價金壹百參拾圓也

◎構造——全部取り外し

が出来る、角々は鑄物の新案のものでとめてある、之が實に丈夫で工合がよい。

◎材料——全部鐵製

(亞鉛引鐵管)

◎使用法と教育的價値

「幼兒の教育」十月號

參照

◎特徴——場所を要せぬ

こと、一時に大勢で遊ばれること、丈夫なこと、危険なきこと等

ワクノボリ(柶登)



レフベール館 株式會社

東東小石川白山下